

*Relu.X.Air*

# Dream-Plus

高気圧空気チャンバー ハードタイプ 品番：DP-K700

## 取扱説明書

ハードタイプ Dream-Plus DP-K700 をお買い上げいただきありがとうございます。  
DP-K700 を安全・快適にお使いいただくために、はじめにこの取扱説明書をよくお読みになり、各部の名称や操作方法等をよくご理解いただいた上でお使い下さいますようお願いいたします。

またこの取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書の中の『DP-K700 を安全にお使いいただくために』をよくお読みのうえ、安全にお使いください。

この取扱説明書は、DP-K700 を使用中にわからないことがでてきたときにいつでも読み返せるよう大切に保管してください。



# 目次

DP-K700 を安全にお使いいただくために	1
ご利用される方への注意	7

## 使用する前に

<i>Dream-Plus</i> とは	9
各部の名称	10

## 操作のしかた

操作するには	15
1. 運転する前に	15
2. 確認運転をする	17
3. 運転する	20
4. 1日の運転がおわったら	24
① 利用中に耳が痛くなったら	26
① 『耳抜き支援モード』を利用するには	27
① 緊急時には	28
① 運転時間の設定を変更するには	30
① 運転コースの設定を変更するには	30
① 付属品の取り扱いについて	31
① 1人で操作するには	32
お手入れするには	37
故障?と思ったときは	40
警報およびエラー表示と対策	42
主な仕様	44



## DP-K700 を安全にお使いいただくために

●当社では、当社の製品をお使いいただくお客様はもとより、製品を管理される方に対して  
も常に**安全を最優先**させるように考えております。

●Dream-Plus DP-K700（以下、装置）をご使用いただく前にはこの取扱説明書をよく  
くお読みになり、記載されている内容を充分にご理解いただく必要があります。

●この取扱説明書は、装置を使用するときにはいつでも確認できるよう、大切に保管してく  
ださい。装置の近くに保管することをおすすめします。

●この取扱説明書では、取り扱いを誤った場合に発生が予想される危害・損害の程度を、基  
本的に『警告』・『注意』の2段階に分類して表示してあります。その定義と表示は次のとお  
りです。

 <b>警 告</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷 <sup>※1</sup> を負うことが想 定される危害の程度
 <b>注 意</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害 <sup>※2</sup> を負うことが想定されるか、 または物的損害 <sup>※3</sup> の発生が想定される危害・損害の程度




※1 重傷とは失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、  
および治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

※2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などを指します。

※3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指します。

なお、『注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。  
いずれも重要な内容を記載していますのでかならず守ってください。

●装置やこの取扱説明書に表示されている記号には次のような意味があります。

	「～しないでください」という <b>禁止</b> を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
	「ご注意ください」という <b>注意喚起</b> を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
	「かならず実行してください」という <b>強制</b> を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。



# 警告

## 装置を使用するとき



### チャンバー内および設置場所では火気厳禁・禁煙

マッチ、ライター、たばこ、カイロ、可燃性液体など、発火したり引火したりするおそれのあるものをチャンバー内には絶対に持ち込まないでください。



### チャンバーの乱暴な取り扱い禁止

・チャンバーの胴体やスライドドアの上に乗ったりものを載せたり叩いたりして、胴体がへこんだりスライドドアのレール部分が破損したりすると、スライドドアが開閉できなくなり、事故や故障の原因になるおそれがあるので、乱暴に扱わないでください。



### 体調不良者への使用禁止

この装置は医療装置ではありません。風邪をひいている人、妊娠している人、酒に酔っている人、その他体調がすぐれない人には利用しないでください。

※詳細は7ページを参照してください。



### 悪い環境下での使用禁止

- ・気温および湿度の高い場所（エアコンで温度・湿度が調整された部屋でお使いください。）
- ・ほこり、油煙の多い場所や虫の入りやすい場所
- ・直射日光が当たる場所、熱器具の近く
- ・ガスや悪臭・異臭が発生する場所、およびそれらが発生するようなものがある場所
- ・騒音・振動が発生する場所、およびそれらが発生するようなものがある場所



### チャンバー、制御盤、および操作器の分解禁止

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



### 電源コードや各種接続ケーブルへの傷つけ禁止

傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したりすると、感電や火災、または故障の原因になります。



### チャンバーおよびスライドドア、ゴムパッキンへの傷つけ禁止

- ・刃物や先のとがった道具・工具等でチャンバー等やゴムパッキンに傷を付けないように注意してください。ゴムパッキンが破損した場合、正常に加圧できなくなるおそれがあります。
- ・ゴムパッキンが破損した場合は、かならずお買い上げ販売店または弊社までご連絡ください。



### 操作器・制御盤への液体の使用禁止

操作器や制御盤の内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



### 濡れた手での取り扱い禁止

感電や火災、または故障の原因になります。



# 警告

## 装置を使用するとき



### 設置場所の換気をする

この装置はまわりの空気を吸い込んで加圧しますので、よごれた空気を吸い込まないように、装置のまわりの空気はきれいにしておく必要があります。



### 電源は、AC（交流）100V・定格15A以上のコンセントを使用し、たこ足配線は行わずに単独で使用する

- ・電圧や定格が異なると、感電や火災、または故障の原因になります。
- ・他の器具と併用するとコンセントが異常発熱して発火するおそれがあります。

### プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

- ・差し込みかたが不完全な場合、感電やショートのおそれがあります。



### 電源プラグの刃および刃の取り付け面はきれいにしておく

電源プラグの刃および刃の取り付け面に汚れやほこりが付着していると、感電やショートのおそれがあります。



### 装置に異常を感じたときはすぐに使用を中止し、電源プラグを抜く

「作動音がおかしい」「空気が漏れる音がする」「スタートボタンを押しても動かない」「変なにおいや煙が出る」等の異常を感じたときは、感電や火災、または故障のおそれがあるので、すぐに使用を中止して、電源スイッチ～バックアップ電源～ブレーカーの順に OFF にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店または弊社までご連絡ください。



## 注 意

### チャンバーに入る人への注意事項



#### チャンバー内への不要物持ち込み禁止

- ・マッチ、ライター、たばこ、カイロ、可燃性液体など、発火したり引火したりするおそれのあるものを絶対に持ち込まないでください。
- ・湯タンポ、ペットボトル、紙パック飲料等の密閉容器類は気圧の影響で破裂するおそれがあるので絶対に持ち込まないでください。
- ・ラジオ、時計、携帯電話、携帯テレビ、コンピュータなどの電子機器や精密機器を持ち込んだ場合、気圧の変化がそれらの製品の寿命に影響する可能性があります。  
**万一それらを持ち込んで故障した場合、弊社は一切の責任を負わないものとします。**
- ・食べものや飲みもの、薬品類を持ち込まないでください。



#### 体調不良時の利用禁止

この装置は医療装置ではありません。風邪をひいているとき、妊娠しているとき、酒に酔っているとき、その他体調がすぐれないときには利用しないようにしてください。

※詳細は7ページを参照してください。



#### はさまれ・ひっかけ注意

スライドドアを開閉するときや、チャンバーに出入りするときは、手や髪など体の一部や衣服がはさまれるとけがの原因になるので、充分注意してください。



#### 耳痛に注意

- ・加圧中・減圧中は気圧の変化の関係で耳が痛くなり、『耳抜き』が必要となる場合があります。（この症状には個人差があります。）
- ・風邪をひいているときや、寝不足、二日酔い、疲れ、発熱等の症状がある等体調がすぐれないとき、あるいはアレルギーや鼻炎などで鼻詰まりを起こしやすい方は耳抜きがうまくできない場合があります。
- ・耳に違和感を感じたらすぐに耳抜きをおこない、うまく抜けずに耳が痛くなったらすぐに係員に知らせて、『耳抜き支援モード』を利用するなどの対応をしてもらってください。

※詳細は7、26、27ページを参照してください。

### 設置・組立のとき



#### 不安定な場所への設置禁止

床面に傾斜や凹凸があるような不安定な場所に設置すると、装置が転倒・転覆して故障したり、利用者がけがをしたりするおそれがあります。



#### 組立完了前の電源接続禁止

装置の組立・接続が完了するまでは、コンセントに電源プラグを差し込まないでください。感電やけが、または機器の損傷の原因になることがあります。



# 注 意

## 運転・操作するとき



### チャンバーの乱暴な取り扱い禁止

- ・チャンバーのスライドドアの上に乗ったりものを載せたり、叩いたりしてスライドドアが破損した場合、事故や故障の原因になります。また、スライドドアをいきおいよく開閉すると、スライド機構が故障したり、指をはさんでけがをしたりするおそれがあります。
- ・スライドドアが破損した場合は、かならずお買い上げ販売店または弊社までご連絡ください。



### はさまれ・ひっかけ注意

スライドドアを開閉するとき、手や髪など体の一部や衣服をはさんだりひっかけたりするとけがの原因になるので、充分注意してください。また、チャンバーの中の人についても、出入りの際には充分注意してください。



### 装置の操作方法を熟知した人が操作すること

初心者が操作する場合にはかならず熟練した人が操作指導するようにしてください。操作に不慣れな人だけで運転した場合、故障や事故があったときに的確な対応ができないおそれがあります。



### 使用前にはかならず各部の点検と試運転を行なうこと

チャンバー、各種弁、スイッチ類が異常な状態のままで使用すると、事故や故障の原因になります。異常を発見したら、その異常が解決されるまでは絶対に使用しないでください。



### スライドドアは規定の「閉」位置までしめて、密閉をしっかりとすること

密閉が不完全な場合、空気が漏れて所定の気圧まで上がらなくなるので、スライドドアをしめるときは規定の「閉」位置までしっかりしめてください。



### 装置を運転しているときは装置や利用者の様子を確認すること

装置やチャンバー内の利用者に異常があったときにすぐに対応できるように、係員はかならず装置の近くで準備しておいてください。



### チャンバー内の利用者に、耳抜きができていないかを確認すること

- ・加圧中・減圧中は気圧の変化の影響で耳が痛くなり、『耳抜き』が必要となる場合があります。（この症状には個人差があります。）  
痛みを我慢して利用した場合、鼓膜が元に戻らなくなる可能性がありますので、加圧時・減圧時には、チャンバー内の利用者に耳抜きができていないかを一定時間ごとに確認し、「耳抜きができない」「痛い」などの返答があった場合は『耳抜き支援モード』を利用してください。
- ・『耳抜き支援モード』では気圧を一時的に下げたり止めたりして、耳抜きをしやすくします。
- ・どうしても耳抜きができない場合は、無理をせずにただちに利用を中止してください。

※詳細は 7、26、27 ページを参照してください。



### 落雷のおそれがあるときは電源プラグをコンセントから抜くこと

使用中に落雷があると、感電や故障の原因になることがあるので、電源スイッチ～バックアップ電源～ブレーカーの順に OFF にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。



# 注 意

## お手入れ・保管・その他



### お手入れ時の薬品の使用禁止

- ・チャンバーや制御盤の表面をお手入れするときは、ベンジンやシンナー、酸性／アルカリ性洗剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。変色／変質の原因になります。
- ・汚れがひどい場合は、水または中性洗剤をつけて固く絞った布で拭いてください。



### 操作器・制御盤への水や液体洗剤等の使用禁止

操作器・制御盤内部に水や洗剤等の液体がかかると、感電や火災、または故障の原因になります。



### 装置のお手入れを行なうときは電源プラグをコンセントから抜くこと

電源をプラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



### 装置を長期間使用しないときはプラグを抜いておくこと

装置を長期間使用しないときや装置を移動させるときは、制御盤内のバックアップ電源をOFFにしてからブレーカーをOFFにして、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。



### 電源プラグを持ってコンセントから抜くこと

電源コードを引っばるとコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



### 使用しないときに子どもの閉じ込みが懸念される場合は、ドアストッパーを利用してスライドドアが閉まらないように固定すること

- ・ドアストッパーは、本体搬入時にチャンバー内に取り付けられています。
- ・スライドドアを全開にし、チャンバー内足元側の左右のスライドレールカバーの黒いキャップをはずして、ドアストッパーを取り付けてください。



### 廃棄するときは産業廃棄物として取り扱うこと

- ・チャンバーや操作器・制御盤および関係部品は、一般廃棄物（家庭ごみ）として処分しないでください。
- ・不法投棄は絶対にしないでください。
- ・産業廃棄物の取り扱いについては、各自治体で条例等により定められています。くわしくはお近くの役所・役場にお問い合わせください。





## ご利用される方への注意

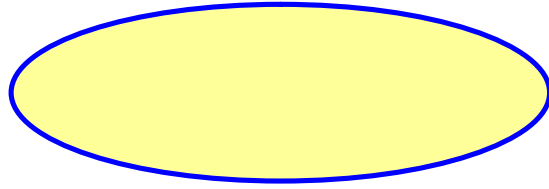
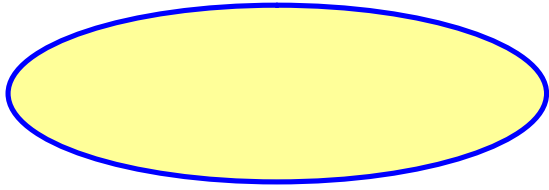
1. *Dream-Plus* は医療機器ではありませんので、下記の方はご利用いただけません。
  - 1) 心臓や脳に疾患のある方
  - 2) 高血圧の方
  - 3) インスリンを使用している方、低血糖症の方
  - 4) 耳、鼻、のど、呼吸器に疾患のある方
  - 5) 妊娠中の方、またはその可能性がある方
  - 6) 風邪をひいている方、風邪ぎみの方
  - 7) ペースメーカーを入れている方
  - 8) その他体調不良、持病等のある方は、かかりつけの医師に相談した上でご利用ください。
2. 下記の方は、場合によってはご利用いただけません。
  - 1) 現在、医者にかかっている方
  - 2) 耳抜きができない方、気圧の変化に弱い方
  - 3) 閉所恐怖症の方
  - 4) 酒に酔っている方
  - 5) 乳児、幼児
3. 加圧時・減圧時には、気圧の変化の関係で耳に違和感を生じ、『耳抜き』が必要となる場合があります。耳抜きがうまくできないときは、我慢しないで、チャンバー内のインターホン子機呼出ボタンで係員を呼び、『耳抜き』がうまくできないことを伝えてください。係員は操作器の『耳抜 ON/OFF』ボタンを押し『耳抜き支援モード』にして気圧を一時的に下げたり止めたりしますので、その間に耳抜きをおこなってください。耳の違和感が完全になくなったら『耳抜き支援モード』を終了してもらって、利用を続けてください。

※『耳抜き支援モード』は、付属の操作リモコンからでも利用できます。

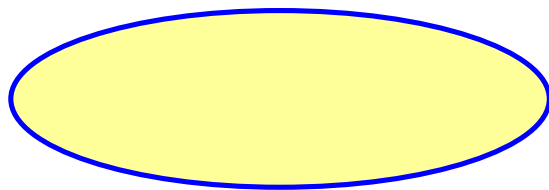
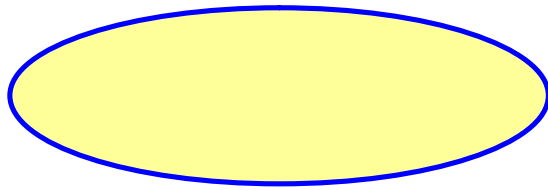
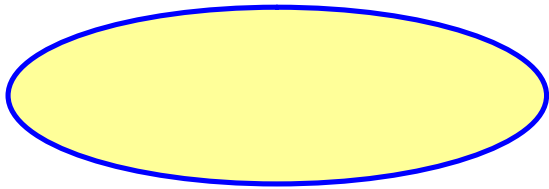
  - 1) 耳の違和感は、無理をして我慢するとひどくなり、痛くなることがあります。
  - 2) どうしても耳抜きができない場合は、利用を中止してください。

※『耳抜き』の詳細は 26、27 ページを参照してください。
4. チャンバー本体は、通常の運転で使用する気圧に対してはじゅうぶんな強度をもっているのですが、チャンバー本体に傷がついたり穴があいたりすると事故につながるおそれがありますので、刃物や先のとがったものは絶対にチャンバー内に持ち込まないでください。

決められた使い方以外の方法で使用して起こった事故については、弊社では一切の責任を負いません。



使用する前に



## Dream-Plus とは

Dream-Plus DP-K700 は、弊社独自の技術によって開発した『ヒーリング（癒し）効果がある健康器具』です。

大気圧よりも高い圧力（通常の 1.3 倍）のカプセルの中に入って、約 40～50 分間清浄な空気を呼吸しながら、ゆっくりおくつろぎいただくことにより、気分爽快、体がリラックスできます。

スポーツの後、会社帰り、気分転換にぜひご利用ください。

DP-K700 のチャンバー（本体）はスチール製なので、十分な強度を持っています。また、出入口の開口が広いので出入りがしやすく、透明アクリル製の大きなスライドドアで開放感があり、中に入ってスライドドアを閉めても密閉されたという不安を感じることはありません。

チャンバー内のベッドは適度な硬さで寝心地もよく、チャンバー内の気圧が設定値まで上がった状態（ $30 \pm 2 \text{kPa}$  <sup>注1</sup>）＝水深 2.8～3.2m の位置での水圧に相当）のときに仮眠をとることによって、最大のリラクゼーション効果が得られます。

操作も簡単で、操作器の『運転 ON/OFF』ボタンを押すだけで自動運転がはじまり、設定時間の中で加圧～均圧～減圧が行われ、残り時間が 0 になれば自動的に終了します。

Dream-Plus で手軽に『高気圧空気ヒーリング』をお楽しみください。



注 1) kPa（キロパスカル）は圧力の単位で、この場合は大気圧基準の圧力を示し、0kPa は大気圧とする。  
大気圧 0kPa（≒1 気圧）を基準とした場合の Dream-Plus の設定値は 30kPa（≒1.3 気圧）となる。

※ 1. 本装置は薬事法で規定された医療機器ではありません。したがって、効能・効果等については記載していません。

※ 2. 本装置では医療診療報酬を伴う治療行為を行なうことはできません。

※ 3. 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

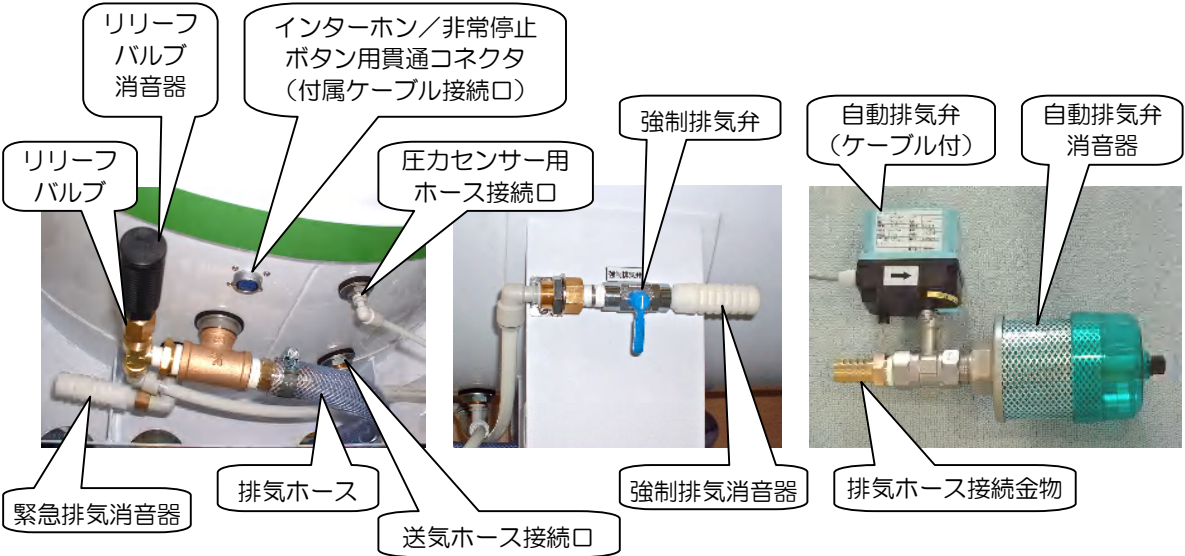
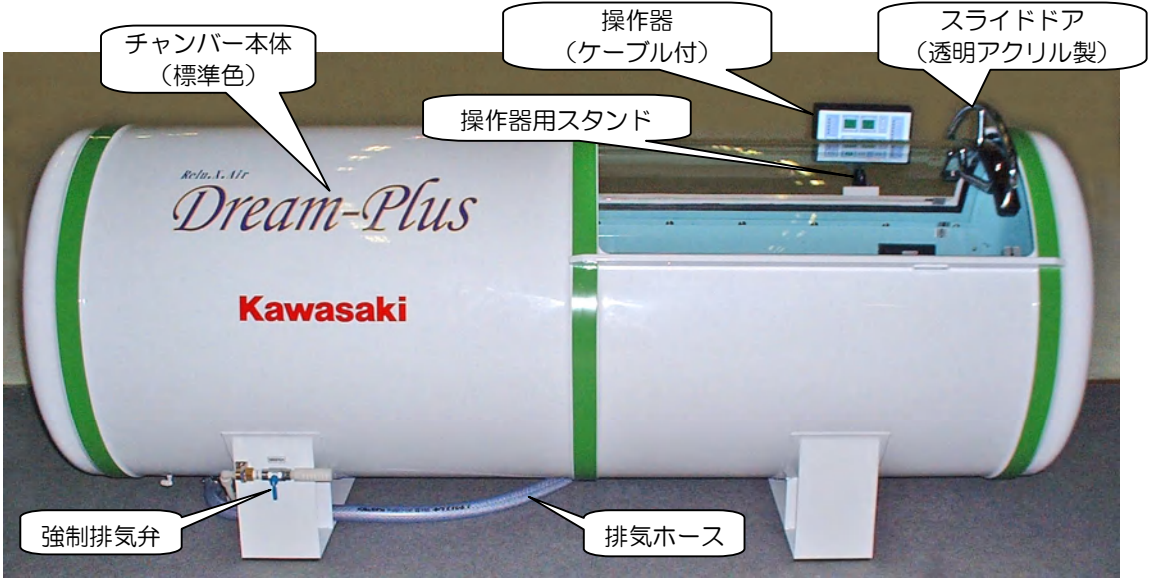
# 各部の名称

Dream-Plus DP-K700 は、次の各機器で構成されています。

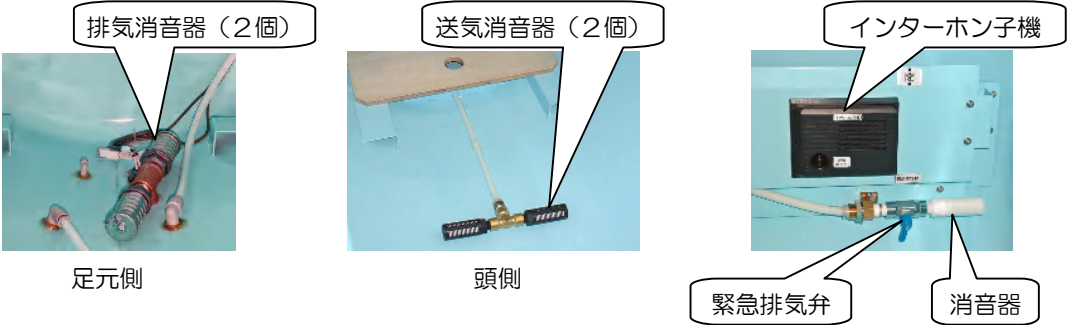
① チャンバー

※仕様によっては、各種弁やボタン等の取り付けが左右反対になることがあります。

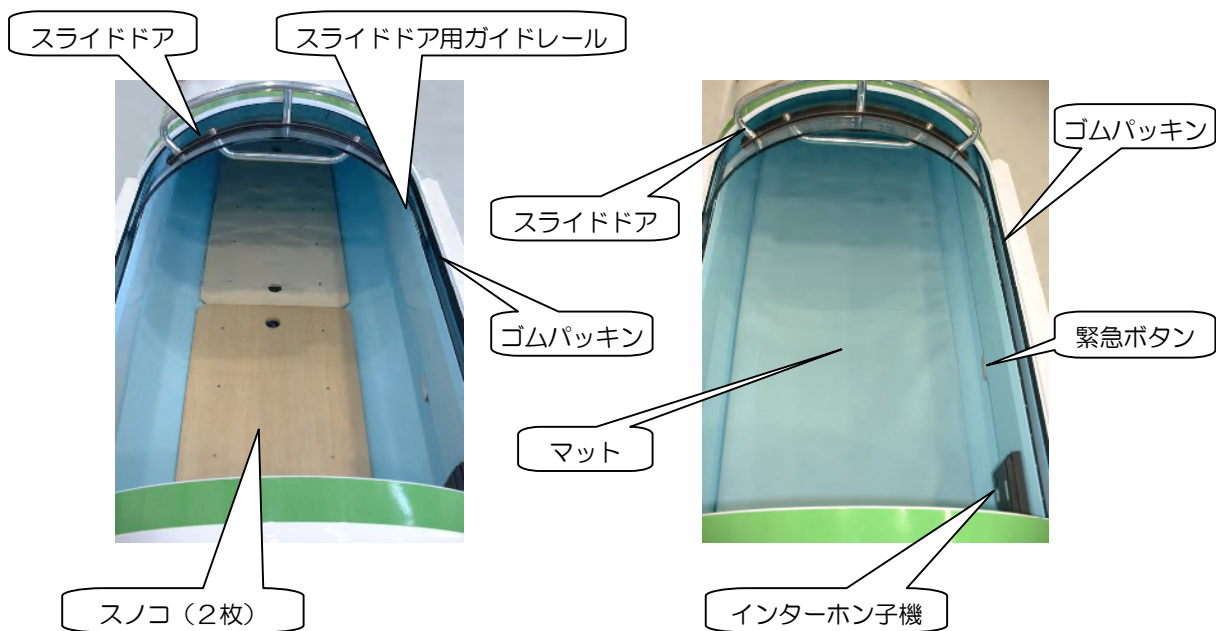
a) 外観



b) 内部 (配管・機器)



c) 内部 (スライドドア用ガイドレール・ゴムパッキン・スノコ・マット)

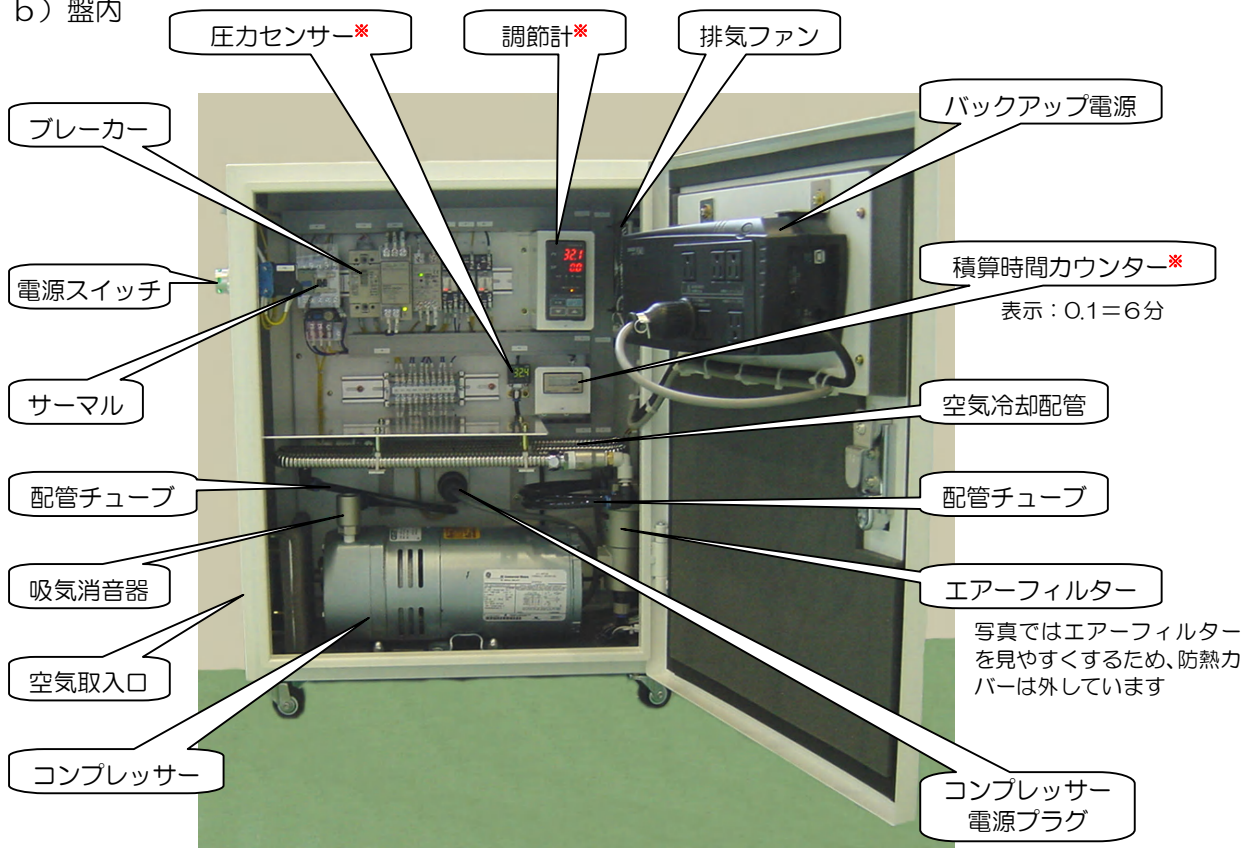


② 制御盤

a) 外観

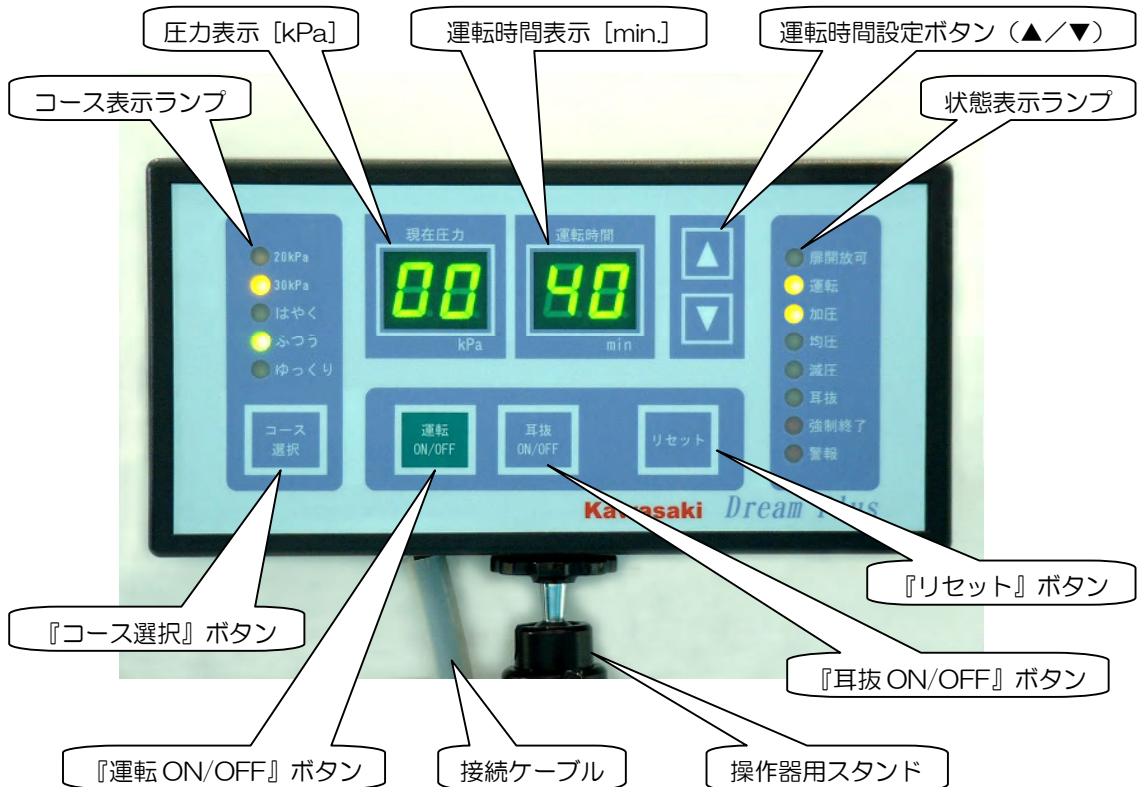


b) 盤内



※印がついている機器のボタンを押すと、自動制御の設定が変更されるおそれがありますので、絶対にさわらないでください。

③ 操作器

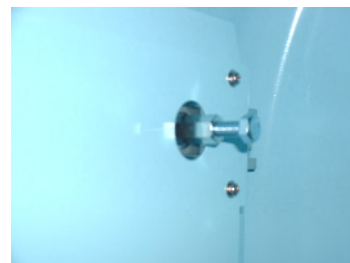


#### ④ 付属品

操作リモコン（2個付属）



ドアストッパー（チャンバー内  
足元側 左右各1本）



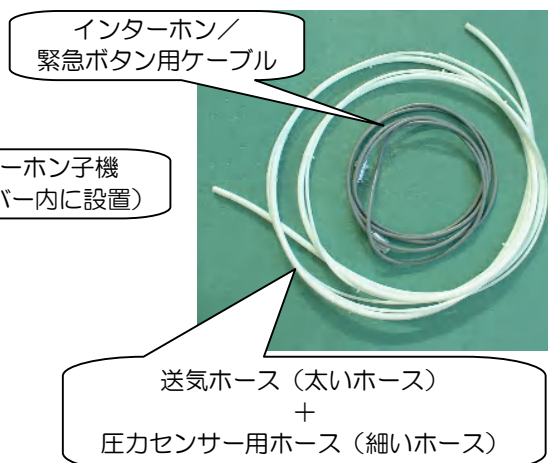
- ※1. 操作リモコンは電波式で、受信アンテナは操作器内にあるので、操作器とセットで使用してください。
- ※2. どちらかのボタンを押しても発信ランプが点灯しない場合は、操作リモコンの電池を交換してください。

※ ドアストッパーは本体据付時にははずしてしまいますが、2本とも大切に保管しておいてください。

インターホン（親機／子機 セット）



各種ホース／ケーブル



※ 使い方の詳細は、別途添付の「デミトーク取扱説明書」を参照してください。

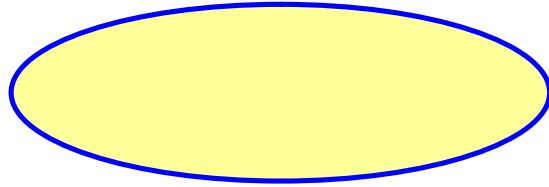
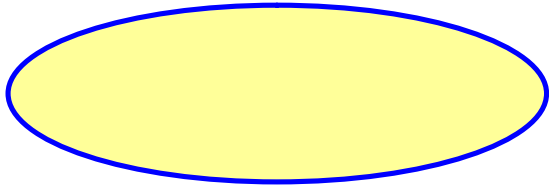
#### ⑤ オプション品

ストッパー付キャスター（別売）

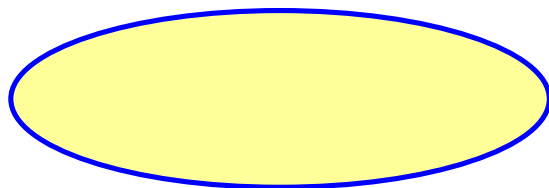
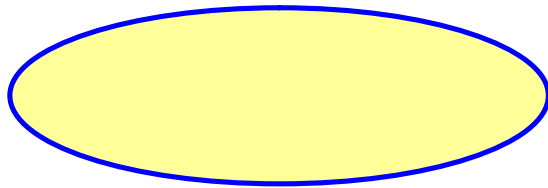
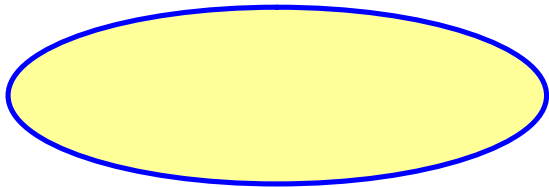


ストッパー付キャスター（4個）

※設置場所を移動して使用する場合には、キャスターを取り付けていると簡単に移動ができます。



操作のしかた





# 操作するには

DP-K700 を運転するには、操作器または操作リモコンにあるボタンを操作します。  
ここでは実際の運転の流れに沿って操作のしかたを説明します。

## 1. 運転する前に

DP-K700 を運転する前には次の準備をしてください。

- ① 制御盤の電源プラグをコンセントに確実に差し込みます。



濡れた手で行わないで下さい。感電のおそれがあります。



アース線はアース端子にしっかりと接続してください。

- ② 制御盤の扉を開け、ブレーカーとバックアップ電源を「ON」にして扉を閉め、制御盤左側面の電源スイッチを押して「ON」にします。



・このとき、制御盤右側面の排気ファンが回転し始めて、操作器の各種ランプが点灯することを確認してください。



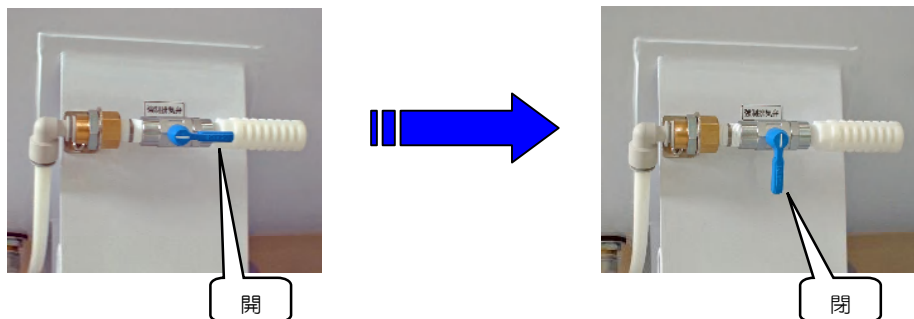
- ③ 緊急ボタンが押されていないことを確認します。



1. 二度目以降に使用するときには、バックアップ電源を充電するために、ブレーカーとバックアップ電源が「ON」になっている場合があります。
2. 運転時間は、工場出荷時の設定値は40分になっています。設定値を変更したい場合は、本書30ページの『運転時間の設定を変更するには・・・』を参照してください。

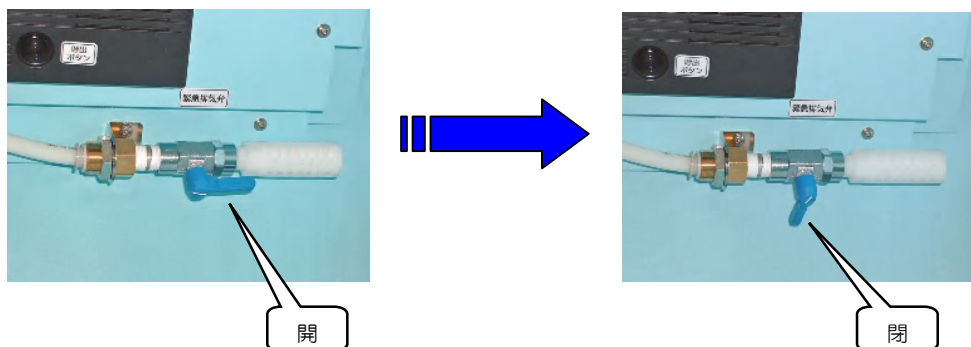
③ チャンバー外側の強制排気弁のレバーを垂直方向に向けて、弁を閉めます。

- ・レバーを水平方向にすると弁が開いて、コンプレッサーから送られた空気がここから逃げてしまいます。
- ※チャンバーの仕様によっては、強制排気弁や加圧圧力調整弁の向きが反対になる場合があります。



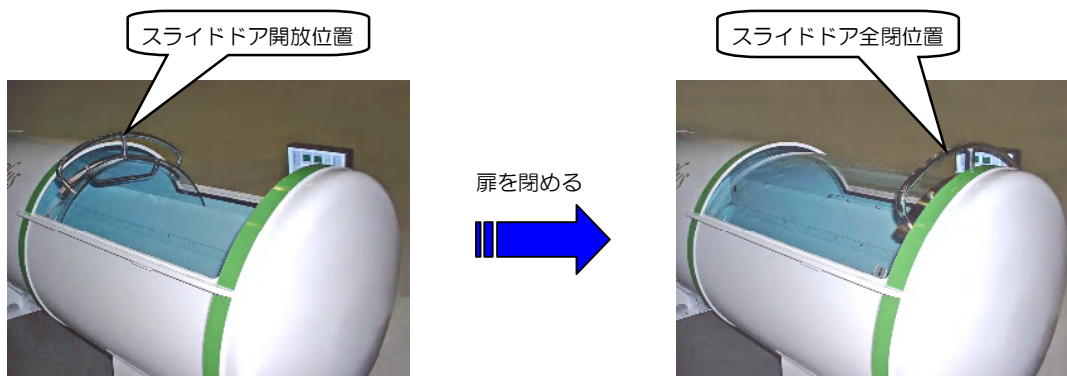
④ チャンバー内側の緊急排気弁のレバーを垂直方向に向けて、弁を閉めます。

- ・レバーを水平方向にすると弁が開いて、コンプレッサーから送られた空気がここから逃げてしまいます。



⑤ スライドドアを開放位置から全閉位置までスライドさせて密閉します。

- ・スライドドアの開閉時には、手や髪など体の一部や衣服をはさんだりひっかけたりしないように注意して開閉操作を行ってください。



## 2. 確認運転をする

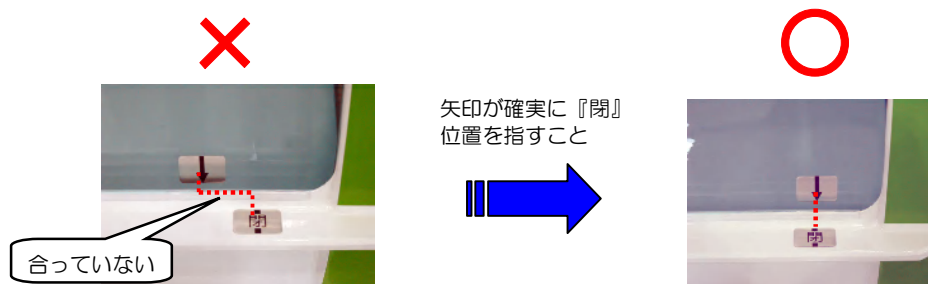
各排気弁を閉め、スライドドアを閉めたら確認運転をして、異常がないことを確認してください。  
また1日の運転のはじめにもかならず確認運転をして、各部に異常がないか確認してください。

※確認運転は、チャンバー内に利用者が入っていない状態でおこないます。

※ここでは、**運転コースは工場出荷時の設定（30kPa、ふつう）**のまままで説明しています。

### ① チャンバーのスライドドアが完全に『閉』状態にあることを確認します。

- ・ 密閉が不完全で圧力が上がらない場合や、スライドドアが『閉』状態にない場合には、ゴムパッキンをいためるおそれがありますので、しっかり『閉』位置まで閉まっていることを確認します。



- ・ スライドドアを開閉するときには、取っ手を持って水平方向にゆっくりひっぱるようにしてください。
- ・ 乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

### ② 操作器の運転時間表示が設定値（工場出荷時の設定は 40）になっていることを確認します。

※運転時間は 20 分～99 分（1 時間 39 分）の間で設定可能です。

設定変更のしかたは 30 ページを参照してください。

設定値が表示されている



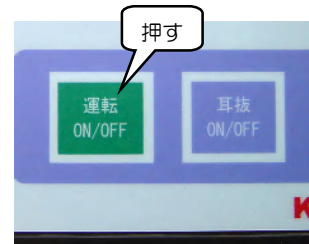
### ③ 操作器の『運転 ON/OFF』ボタンを押します。

- ・ 制御盤内のコンプレッサーからチャンバーに空気が送られて加圧が始まり、操作器の運転時間表示がカウントダウンをはじめます。

※1. 圧力表示の数値がすこしずつ上がっていくことを確認してください。

※2. 制御盤内のコンプレッサーが動いていることを“音”で確認してください。

\*運転中は操作器の圧力表示で内部の気圧を監視し、異常があればすぐに運転を中止してください。



チャンバー内の気圧が上昇するときに、チャンバーがきしむような音がある場合がありますがこれは、スライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられるときに、スライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアが気圧の上昇と共に微妙な変形を起こす際に、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。

④ チャンバーのスライドドアのゴムパッキン部や、強制排気弁、緊急排気弁から空気が漏れていないことを確認します。また、制御盤から異常な音がしたり、においや煙が出たりしていないことを確認します。

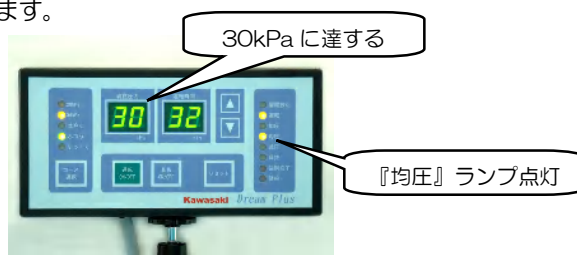
- ・強制排気弁や緊急排気弁から空気が漏れている場合は、レバーを垂直方向にして弁を閉めてください。
- ・スライドドアが完全に閉まっていない場合には、スライドドアとゴムパッキンとの間から空気が漏れだして、「シュー」という音がし、チャンバー内の気圧が上がりません。『運転 ON/OFF』ボタンを押してから1分経過しても圧力表示が03kPa 以下の場合は、再度『運転 ON/OFF』ボタンを押して終了操作をし、チャンバー内の気圧が00kPa になって操作器の状態表示ランプの『扉開放可』が点灯したらスライドドアを閉め直して、もう一度運転を開始してください。
- ・少しでも異常があるときはただちに運転を中止して異常の原因を調べ、修理などの対処をしてください。原因がわからないときは、お買い上げ販売店にご連絡ください。



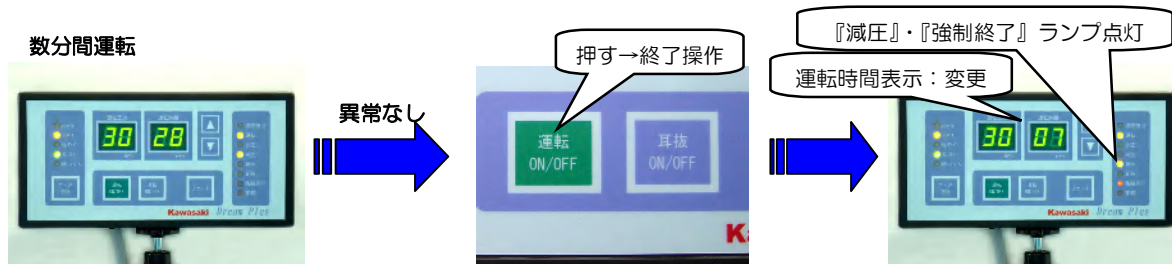
- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり引っ張るようにしてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

⑤ 操作器の圧力表示が 30kPa に達して、状態表示ランプの『均圧』が点灯したら、さらに数分間運転して、異常がないことを確認します。

- ・運転開始後約 7 分で、30kPa に到達します。



⑥ 30kPa の状態（均圧状態）でしばらく運転して、異常がないことが確認できたら、操作器の『運転 ON/OFF』ボタンを押して終了操作をします。



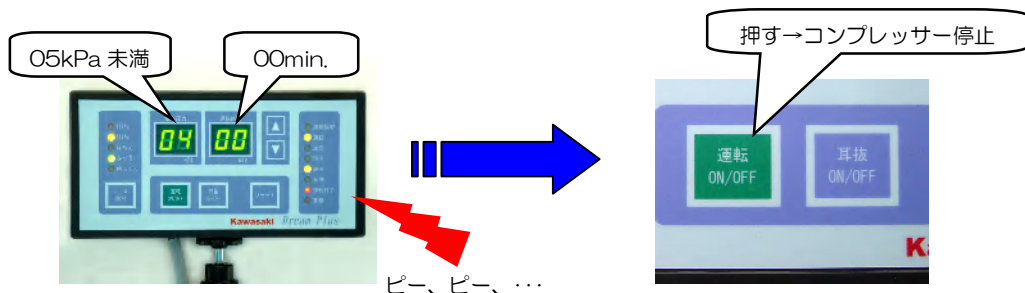
- ・『運転 ON/OFF』ボタンを押すと、状態表示ランプの『強制終了』が点灯して終了処理に入り、コンプレッサーから空気を供給しつつ、チャンバー内の気圧を下げます。このとき、運転時間表示の数字が変わり、状態表示ランプの『減圧』が点灯します。



チャンバー内の気圧が下がるときに、チャンバーがきしむような音がする場合がありますがこれは、スライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられていたものが、離れていくときにスライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアが気圧の下降と共に微妙な変形を起こす際に、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。

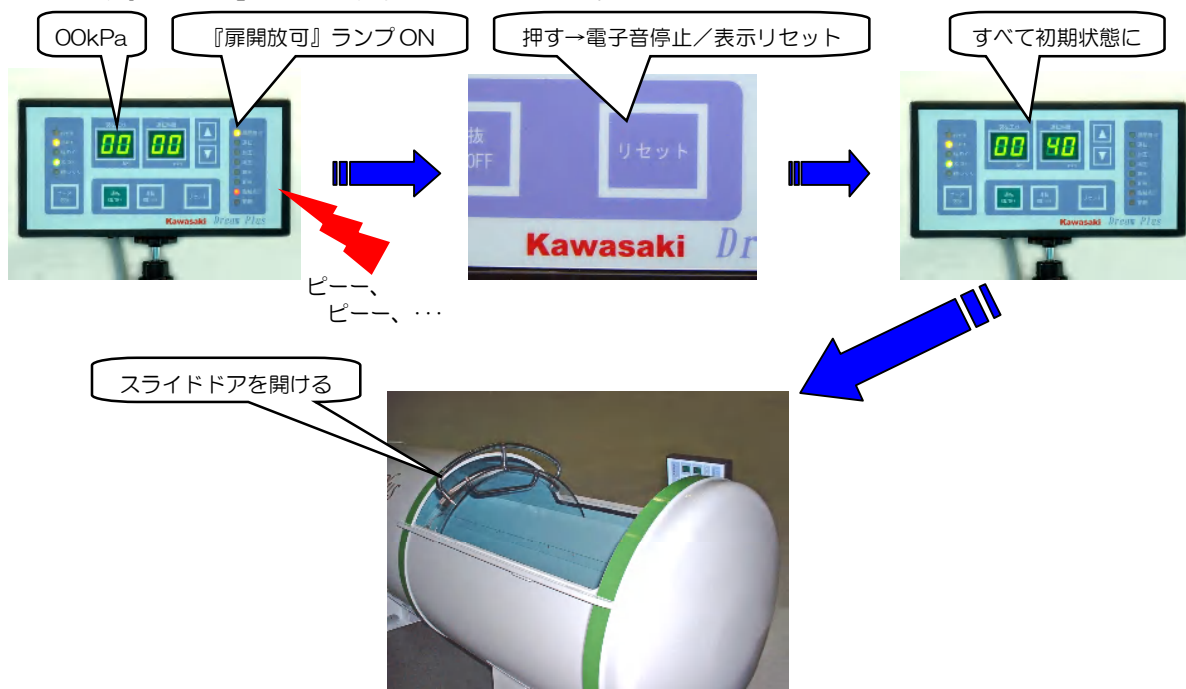
⑦ 操作器の運転時間表示が 00min. になって、圧力表示が 05kPa よりも下がって、「ピー、ピー、…」という電子音が鳴ったら、『運転 ON/OFF』ボタンを押してコンプレッサーを止めます。

- ・コンプレッサーと電子音は、『運転 ON/OFF』ボタンを押すまで止まりません。
- ・コンプレッサーを止めると、チャンバー内に残っている空気が少しずつ抜けて圧力表示が 00kPa に近づきます。



⑧ 操作器の圧力表示が 00kPa になるともう一度「ピーー、ピーー、…」という電子音が鳴って、状態表示ランプの『扉開放可』が点灯するので、操作器の『リセット』ボタンを押して電子音を止め、チャンバーのスライドドアを開けます。

- ・電子音は、『リセット』ボタンを押すまで止まりません。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり引っばるようにしてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

### 3. 運転する

確認運転で異常がないことが確認できたら、さっそく運転してみましょう。

※ここでは、運転コースは工場出荷時の設定（30kPa、ふつう）のまま説明しています。  
運転コースを変更するには、30ページの『運転コースの設定を変更するには・・・』を参照してください。

#### ① チャンバーの中に入る利用者の持ち物をチェックします。

- ・持ち込みが禁止されているものを持っている場合は、チャンバー内に持ち込まないように一時的に預かるなどしてください。

＜持ち込みが禁止されているもの＞



- ・マッチ・ライター・たばこ・カイロ・可燃性液体などの発火・引火しやすいもの
- ・ナイフ・はさみなどの刃物類や、キリ・ドライバーなど先のとがったもの
- ・湯タンポ・ペットボトル・紙パック飲料などの密閉容器類（破裂するおそれがあります。）
- ・飲食物／薬品類

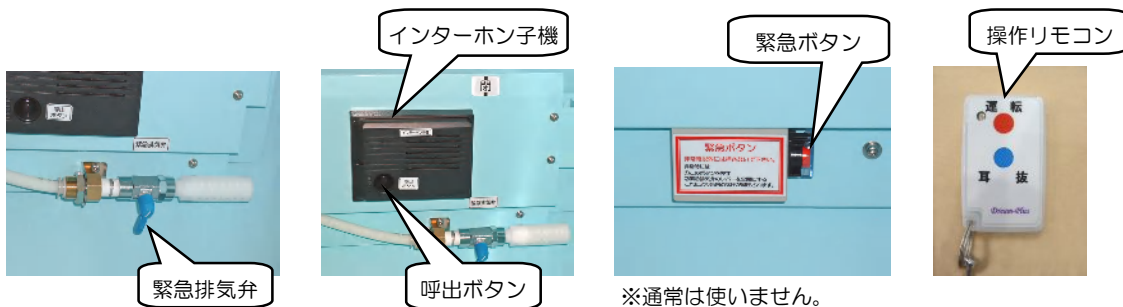
#### ② チャンバーの中に入る利用者に、『耳抜き』の説明、緊急時の説明、注意事項の確認などを行ないます。

- ・中に入る人にはじゅうぶん理解してもらってください。

※ 『耳抜き』については26ページ『利用中に耳が痛くなったら・・・』、27ページ『耳抜き支援モード』を利用するには・・・』を参照してください。

※ 緊急時の対応については28ページ『緊急時には・・・』を参照してください。

※ チャンバー内に設置されている「緊急排気弁」、「インターホン子機」、「緊急ボタン」、「操作リモコン」については必要時以外には使用しないよう説明してください。



※通常は使いません。  
OFFであることを確認  
してください

#### ③ チャンバーのスライドドアを開放して、利用者にチャンバーの中に入ってもらいます。

- ・チャンバーの出入口周囲の角に、手足や体をぶつかけたりして、けがをしないように注意してください。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり引っばるようしてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

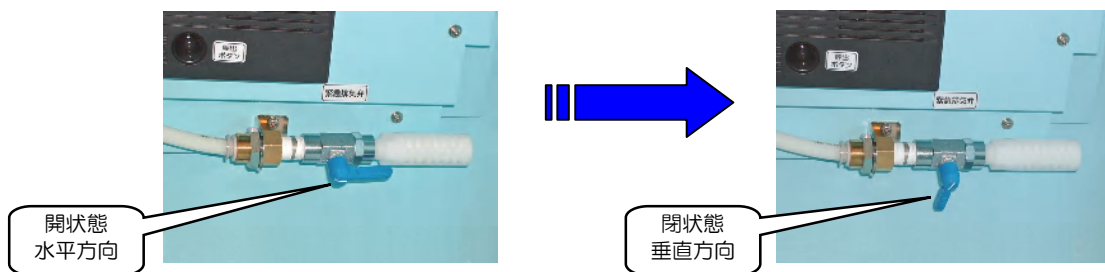


④ 利用者には、スライドドアの方に頭がくるように入って、あお向けになってもらいます。

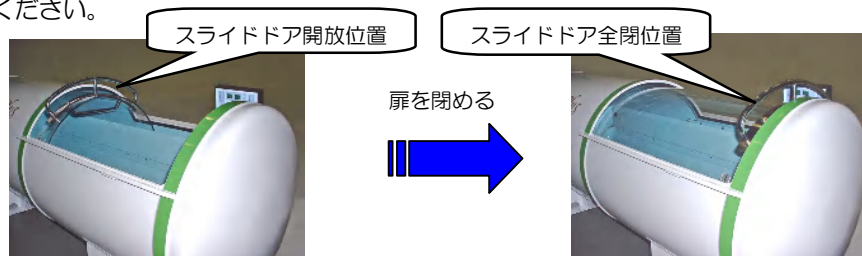
- ・利用者の準備がおわったら、インターホンおよび運転リモコンと緊急排気弁の説明をして、それぞれの作動確認をしてもらってください。



⑤ チャンバー内の緊急排気弁が閉まっていることを確認したあと、スライドドアを閉めます。

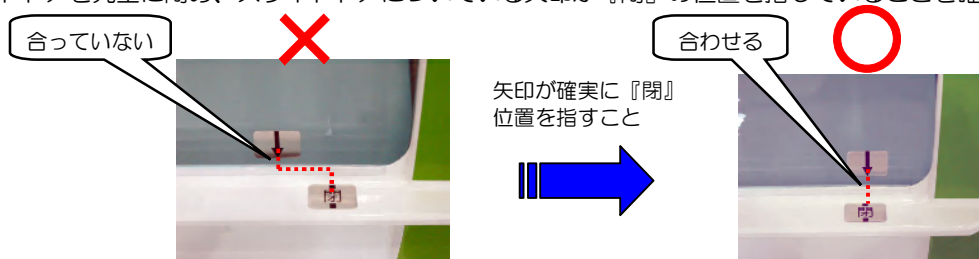


- ・スライドドアの開閉時には、手や髪など体の一部や衣服をはさんだりひっかけたりしないように注意して開閉操作を行ってください。

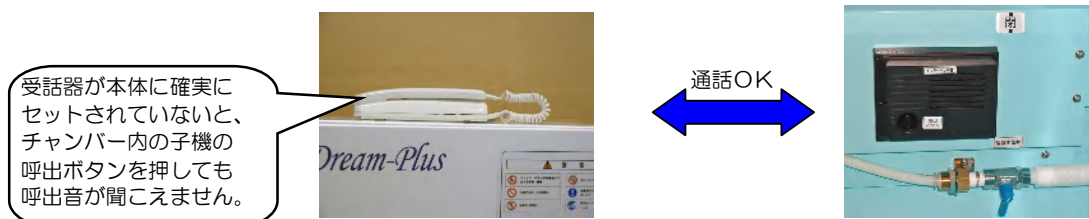


- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり引っ張るようにしてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

- ・スライドドアを完全に閉め、スライドドアについている矢印が『閉』の位置を指していることを確認します。

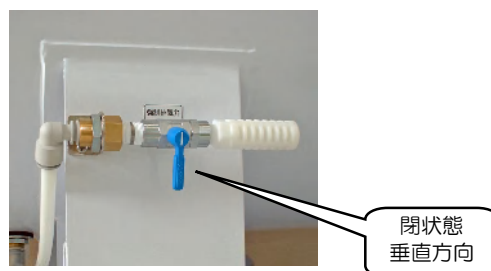


- ・インターホン子機の呼出ボタンを押して親機から呼び出し音が聞こえた後に、親機を受話器を取ってチャンバー内の利用者と会話をしてお互いの声が聞こえることを確認してください。

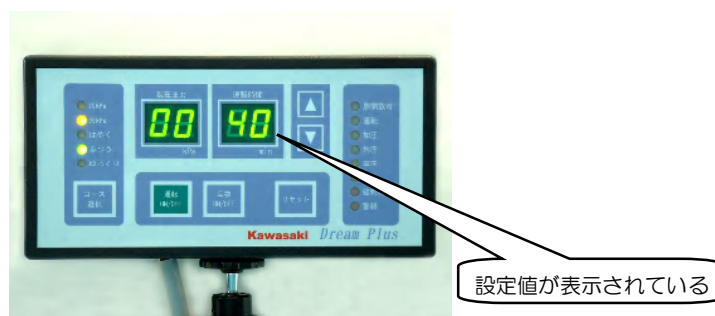


⑥ 強制排気弁のレバーが垂直方向を向いていることを確認します。

- ・レバーが水平方向を向いているときは、レバーをまわして垂直方向に向けて閉めてください。



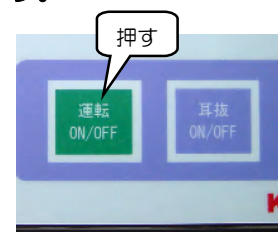
⑦ 操作器の運転時間表示が設定値(工場出荷時の設定は 40)になっていることを確認します。



⑧ 操作器の『運転 ON/OFF』ボタンを押すと、自動運転が始まります。

- ・制御盤内のコンプレッサーからチャンバーに空気が送られて加圧が始まり、操作器の運転時間表示がカウントダウンをはじめます。

- ※ 1. 『運転 ON/OFF』ボタンを押す前に、利用者の様子を確認しながら、運転を始めることを、インターホンをつうじて知らせてください。
- ※ 2. 圧力表示の数値がすこしずつ上がっていくことを確認してください。
- ※ 3. 制御盤内のコンプレッサーが動いていることを“音”で確認してください。



\* 運転中は操作器の圧力表示で内部の気圧を監視し、異常があればすぐに運転を中止してください。



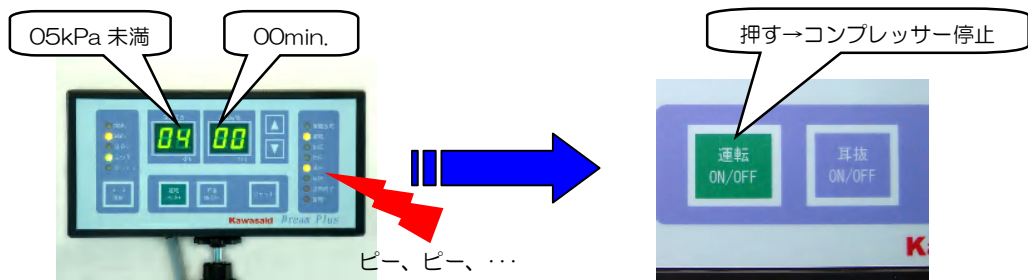


- ・圧力表示の数値が上がりはじめてから気圧が安定するまでの間は、チャンバー内の利用者は耳に違和感を感じるので耳抜きをしてもらう必要がありますが、うまくできない場合は耳が痛くなることがあります。また、我慢して利用し続けると、痛みが増したり違和感が数日間残ったりする場合があります。(症状には個人差があります。)
- ・これを防ぐために、加圧中にはチャンバー内の利用者に耳が痛くなっていないかを何度か確認して、利用者から「耳抜きができない」「耳が痛い」などの返答があった場合は、『耳抜 ON/OFF』ボタンを押して**耳抜き支援モード**にしてから、あらためて耳抜きをしてもらってください。
- ・耳抜き支援モードでは、チャンバー内の気圧を一時的に下げるので、耳抜きがしやすくなります。
- ・耳抜き支援モードを開始して1分経過すると、耳抜き支援モードにはいる前の状態に戻りますが、何度でも利用できます。ただし、運転時間は最初に設定した長さのまま変わりません。
- ・耳抜き支援モードを利用して耳抜きがうまくできない場合は、無理をせずに『運転 ON/OFF』ボタンを押して強制終了してください。

※詳細は26、27ページを参照してください。

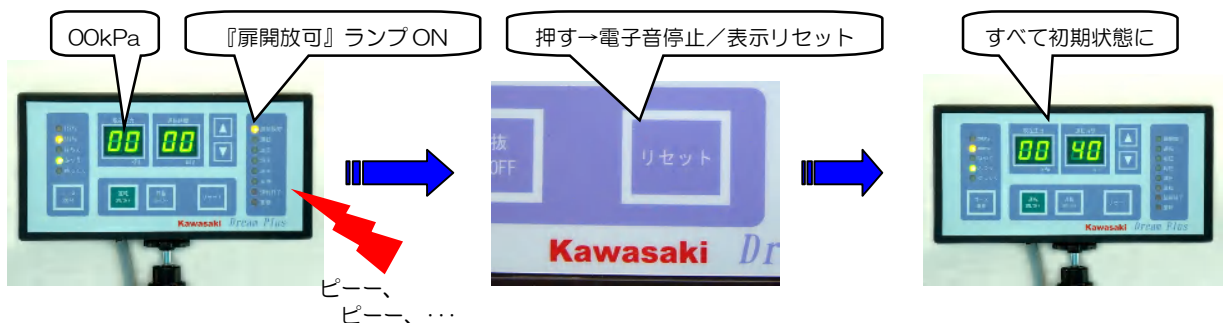
⑨ 操作器の運転時間表示が00min.になって、圧力表示が05kPaよりも下がって「ピー、ピー、…」という電子音が鳴ったら、『運転 ON/OFF』ボタンを押してコンプレッサーを止めます。

- ・この時点で利用者に、インターホンをつうじてもうすぐ終了することを伝えてください。
- ・コンプレッサーと電子音は、『運転 ON/OFF』ボタンを押すまで止まりません。
- ・コンプレッサーを止めると、チャンバー内に残っている空気が少しずつ抜けて圧力表示が00kPaに近づきます。



⑩ 操作器の圧力表示が00kPaになるともう一度「ピーー、ピーー、…」という電子音が鳴って、状態表示ランプの『扉開放可』が点灯するので、操作器の『リセット』ボタンを押して電子音を止めます。

- ・この時点で利用者に、終了したので扉を開けることを伝えてください。
- ・電子音は、『リセット』ボタンを押すまで止まりません。



#### ⑪ チャンバーのスライドドアを開けて、利用者に出てもらいます。

- ・チャンバーの出入口周囲の角に、手足や体をぶつかけたりしてけがをしないように注意してください。



ご利用者が、つづけてご利用される場合には、チャンバー内部の「臭いや湿気」を取り除くためにも10分間程度スライド扉を開放して、内部の空気の入れ替えを行っていただくことをお勧めいたします。



チャンバー内の気圧が変化するとき、チャンバーがきしむような音がありますがこれはスライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられたり、はなれたりするときに、スライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアが気圧の変化と共に微妙な変形を起こす際に、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり引っ張るようにしてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

### 4. 1日の運転がおわったら

1日の運転がおわったら、次の作業を行なってください。

#### ① チャンバーのスライドドアを開放して、内部の空気を入れ替えるようにします。

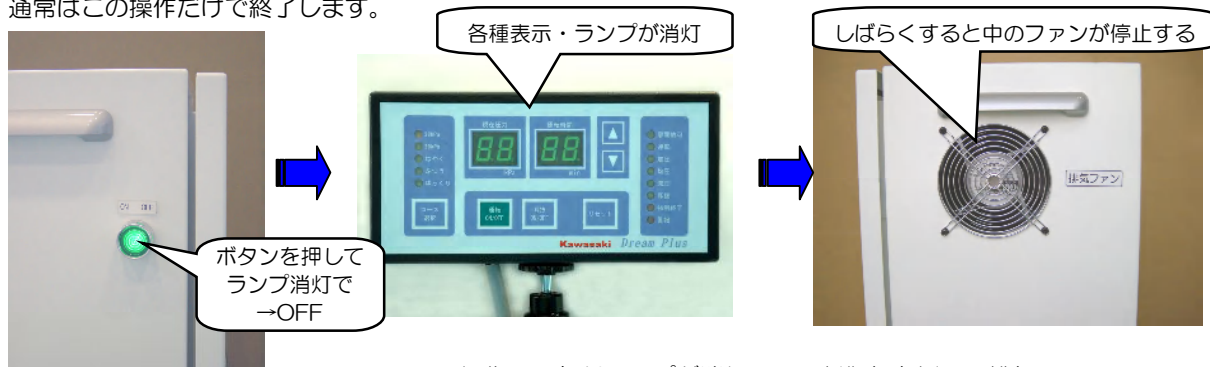
- ・チャンバー内部ににおいや湿気が残り、翌日の利用者が不快感を持たれる場合があります。
- ・チャンバー内でシートやタオルケット等を使用している場合は、チャンバーから出して、クリーニングしてください。



- ・日常の使用がおわった場合は、チャンバー内の空気を入れ替えるために、スライドドアを閉めずに開放しておいてください。
- ・1週間以上使用しない場合は、スライドドアを軽く閉めて密閉用のゴムパッキンに変形がない程度にして保管してください。

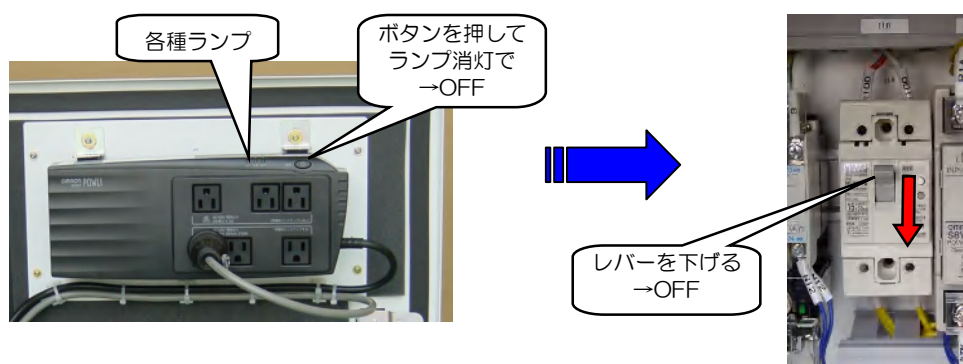
② 制御盤左側面の電源スイッチを押して「OFF」にします。

通常はこの操作だけで終了します。



※操作器の各種ランプが消灯して、制御盤右側面の排気ファンのモーター音が止まることを確認してください。  
(ファン自体はしばらくの間、惰性でまわります。)

長期間使用しない場合は、制御盤の扉を開けてバックアップ電源とブレーカーも「OFF」にして、扉を閉めます。



長期間使用しないときや、チャンバー本体を移設するとき、また子どもの閉じ込みが懸念されるときは、チャンバーのスライドドアを全開にして、チャンバー内足元側の左右のスライドレールカバーの黒いキャップをはずしてドアストッパーを取り付け、スライドドアが閉まらないようにしてください。

- ・スライドドアを閉めたまま長期間保存すると、パッキンをいためるおそれがあります。
- ・チャンバー本体を移設するときは、スライドドアが動かないように固定します。
- ・子どもがチャンバーの中で遊んでいて、スライドドアを閉めて閉じ込められてしまった場合、窒息するおそれがあります。



## 利用中に耳が痛くなったら・・・

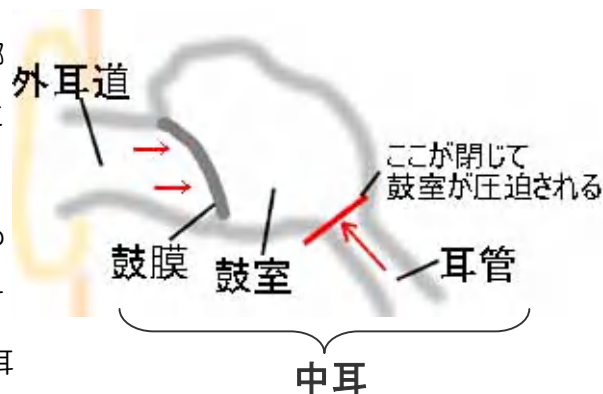
### ●高気圧による聴器障害

『高気圧による聴器障害』とは、聴器（耳）の内部と外部の圧力差によって組織が変位・変形することにより引き起こされる障害です。

このような状況下では、早期にその部位に違和感や痛み（車で山に登っていくときやダイビングで潜水するとき、あるいは飛行機で着陸するとき起こる、耳が張ったような感覚や痛み）を覚えます。

Dream-Plus を利用するとき、チャンバー内の圧力が上がる途中や下がる途中で、鼓膜の内外の圧力のバランスが崩れて、このような症状が起こります。（症状には個人差があります。）

これを正常に戻すには、鼻と中耳をつなぐ『耳管』という管を開く動作を行ないます。



### ●耳抜き

この『耳管を開く動作』を、一般に『耳抜き』といいます。

これにはいろいろな方法があります。

- 1) まず最初にあくびをする動作を何回か試してください。
- 2) 1) で治らない場合は、唾液を口の中にためてゴクンと飲み込んでみてください。  
これも2～3回試してください。
- 3) 2) でも治らない場合は、舌の付け根をのどの奥へ引くような動作を繰り返してみてください。（フィレンツェ法）
- 4) 3) でも治らない場合は、鼻をつまんで鼻をかむように力んでみてください。（バルサルバ法）



- ・ 4) の方法は比較的強力で耳抜きもしやすいですが、閉じていた耳管に一気に空気が押し込まれることとなりますので、**あまり強くなるとう鼓膜を傷つける可能性もあります**ので気をつけてください。
- ・ これらの方法を試してもなおらない場合は、無理をせずに利用を中止してください。我慢して続けた場合、痛みが増したり違和感が数日間残ったりする場合があります。

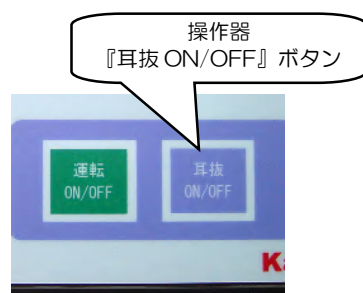


## 『耳抜き支援モード』を利用するには・・・

### ● 『耳抜き支援モード』とは

チャンバー内の気圧が上がっているとき（加圧中）、もしくは下がっているとき（減圧中）、チャンバーの中にいる利用者は『耳抜き』をする必要がありますが、人によっては耳抜きがうまくできないことがあります。このとき『耳抜き支援モード』を利用すると、比較的ラクに耳抜きができます。

『耳抜き支援モード』は、操作器もしくは操作リモコンの『耳抜 ON/OFF』ボタンを押すだけで何度でも利用できます。



### ● 『耳抜き支援モード』の操作

#### 1) 加圧中に『耳抜き支援モード』を利用するとき

- ①チャンバー内の気圧が8kPa 以上のとき、『耳抜 ON/OFF』ボタンを押すと、操作器の状態表示ランプの『耳抜』が点灯します。  
**※8kPa 未満のときは、『耳抜き支援モード』は使えません。**
- ②チャンバー内の気圧が、30秒かけて5kPa 下がります。
- ③5kPa 下がったら、その気圧を30秒間維持します。
- ④『耳抜 ON/OFF』ボタンを押してから1分が経過すると、『耳抜き支援モード』が終了して、再び加圧をはじめます。



#### 2) 減圧中に『耳抜き支援モード』を利用するとき

- ①チャンバー内の気圧が5kPa 以上のとき、『耳抜 ON/OFF』ボタンを押すと、操作器の状態表示ランプの『耳抜』が点灯します。  
**※5kPa 未満のときは、『耳抜き支援モード』は使えません。**
- ②減圧が一時的に止まって、チャンバー内の気圧は『耳抜 ON/OFF』ボタンを押した時点の気圧を維持します。
- ③『耳抜 ON/OFF』ボタンを押してから1分が経過すると、『耳抜き支援モード』が終了して、再び減圧をはじめます。



- ※1. 『耳抜き支援モード』の途中で『耳抜 ON/OFF』ボタンを押すと、その時点で『耳抜き支援モード』は終了（『耳抜き』ランプは消灯）し、もとの自動運転に戻ります。
- ※2. 加圧中に『耳抜き支援モード』を利用した場合の時間は、最初に設定した運転時間の中に含まれますので、その分だけ均圧時間（30kPa を維持する時間＝運転時間から加圧時間と減圧時間をのぞいた時間）が短くなります。
- ※3. 減圧中に『耳抜き支援モード』を利用した場合の時間は、その分だけ減圧時間が延長されます。
- ※4. 強制終了処理中（減圧中）でも『耳抜き支援モード』は使えます。

## **i** 緊急時には・・・

Dream-Plus を運転中は、通常は係員が装置を監視していますが、都合により装置から離れることもあります。万一このときに次のような緊急事態が発生したら、利用者自身が下記の手順にしたがって対応できるように、事前に説明してください。

### ●チャンパーの中から係員を呼びたいとき

チャンパー内に設置されているインターホン子機の『呼出ボタン』を押すと、チャンパー外に設置されたインターホン親機の呼出音が鳴って、係員を呼び出すことができます。

※このとき、インターホン親機を受話器を取るとインターホン子機と会話をすることができます。

注) インターホン親機を受話器が本体に確実に置かれていないと、子機の呼出ボタンを押しても呼出音は鳴りません。



### ●チャンパーの中からチャンパー内の気圧を下げたいとき

チャンパー内に設置されている緊急排気弁を開けると、チャンパー内の空気が排出され、気圧が下がります。

ただし、急激に気圧が下がると耳が痛くなることがありますので、そのときは『耳抜き』を行なってください。(26、27 ページ参照)



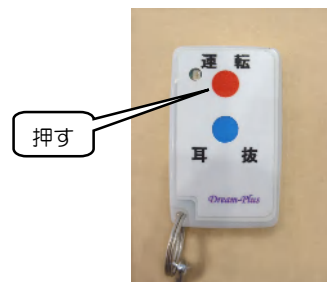
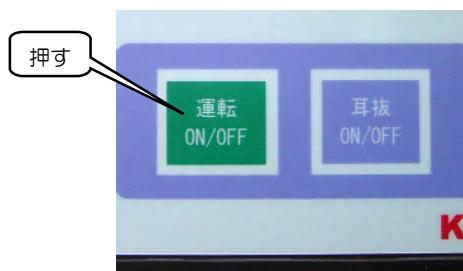
### ●自動運転を強制終了したいとき

自動運転の途中で強制終了したいときは、操作器の『運転 ON/OFF』ボタンを押します。

またチャンパー内に操作リモコンを置いていれば、チャンパーの中からも強制終了ができます。

自動運転を強制終了すると、コンプレッサーから空気を供給しつつ、チャンパー内の気圧を下げます。

※このときも『耳抜き支援モード』は利用できます。



### ●非常停止したいとき

運転中に事故や災害などが発生した場合は、すみやかに非常停止操作を行って、チャンパー内の利用者がチャンパーから外へ出られるようにしてください。

## ①チャンバー内で非常停止操作を行う場合

チャンバー内の利用者が『緊急ボタン』を押します。緊急ボタンを押すと自動運転が停止し、制御盤内のコンプレッサーも停止して、チャンバー内の気圧は約5分（30kPaコース選択時）～3分（20kPaコース選択時）で00kPaまで下がります。

※このとき、操作器の運転時間表示画面にエラーコード『E3』が表示されて、『ピーツ、ピーツ、・・・』という警報音が鳴りますが、無視して、気圧を下げることを優先してください。

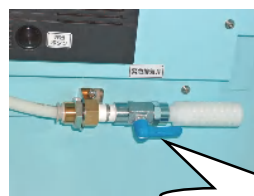
操作器の圧力表示が10kPa以下になったら、チャンバー内外の気圧差が小さくなって気圧が下がりにくくなりますが、チャンバー内の緊急排気弁を開けると気圧が下がりやすくなります。

操作器の圧力表示が00kPaになったらスライドドアを開けて、チャンバー内の利用者には外へ出てもらってください。

※このとき、『耳抜き支援モード』は利用できません。



カバーを開き  
ボタンを押す



レバーを水平方向にまわす

## ②チャンバー外で非常停止操作を行う場合

制御盤左側面の電源スイッチを押して「OFF」にすると自動運転が停止し、制御盤内のコンプレッサーも停止して、チャンバー内の気圧は約5分（30kPaコース選択時）～3分（20kPaコース選択時）で00kPaまで下がります。

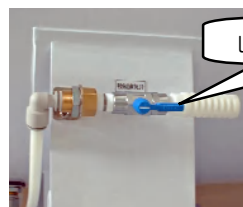
※このとき、操作器のすべての表示やランプも消灯するので、チャンバー内の気圧はわからなくなります。

チャンバーからの「シュー」という排気音がおだやかになってきたら、チャンバー外側の強制排気弁を開け、排気音がしなくなったらスライドドアを開けて、チャンバー内の利用者には外へ出てもらってください。

※このとき、『耳抜き支援モード』は利用できません。



押す→OFF



レバーを水平方向にまわす

## ●運転中に停電したとき

運転中に停電が起こっても、制御盤内にはバックアップ電源を備えているので、運転がすぐに止まることはありません。

ですがこの装置はあくまでも非常用ですので、停電を検出すると自動的に強制終了され、チャンバー内の気圧は約5分（30kPaコース選択時）～3分で00kPaまで下がります。

※このとき、『耳抜き支援モード』は使えません。

※バックアップ電源の電池は2～3年ごとに交換する必要があります。



バックアップ  
電源

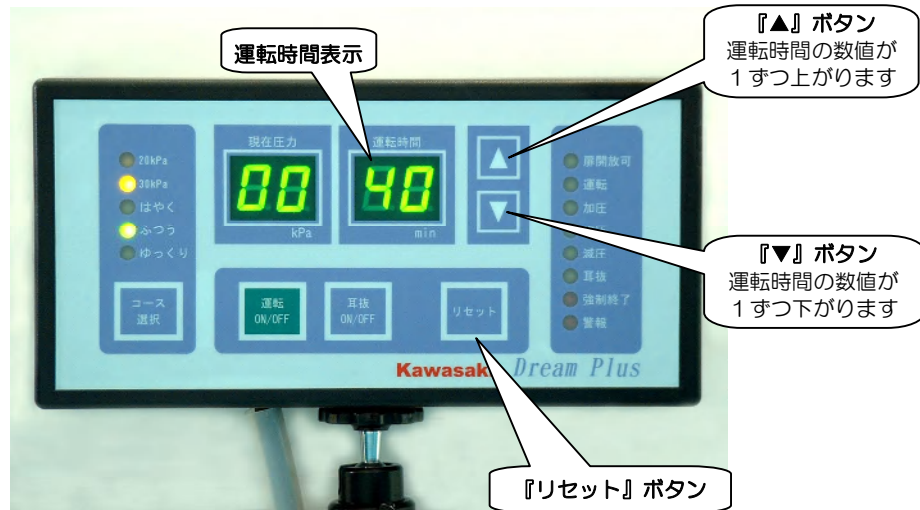
## ●運転中に警報音が鳴ったとき／エラーコードが表示されたとき

43 ページに記載のエラーコードが表示されて警報音が鳴ると、自動運転が強制終了され、チャンバー内の気圧は約5分（30kPaコース選択時）～3分（20kPaコース選択時）で00kPaまで下がります。

※このとき、『耳抜き支援モード』は使えません。

## **i** 運転時間の設定を変更するには・・・

自動運転の設定時間は、出荷時の設定では「40」（分）となっています。  
 運転時間の変更は、次の手順で行なってください。



- ※1. **運転中の時間変更はできません。**
- ※2. 『リセット』ボタンを押しながら時間設定をすると、初期値がその時間に変更されます。
- ※3. 変更中は数字が点滅していますが、『運転 ON/OFF』ボタンを押して運転を開始すると点滅は止まります。
- ※4. 設定可能時間 : 20~99分（1時間39分）

## **i** 運転コースの設定を変更するには・・・

自動運転の運転コースは、標準の『30kPa（1.3気圧）』コースと、気圧が少し低くなる『20kPa（1.2気圧）』コースがあります。またそれぞれのコースに、気圧を上げたり下げたりするはやさを調節するために『はやく』『ふつう』『ゆっくり』の3つのコースがあります。



出荷時の設定は、標準の『30kPa、ふつう』になっています。

『コース選択』ボタンを押すと、下記の順でコースが変更されます。

- |    |  |
|----|--|
| 戻る | → ① 『30kPa、ふつう』 = 7分で加圧 → 30kPa（1.3気圧）で均圧 → 7分で減圧  |
|    | ② 『30kPa、ゆっくり』 = 10分で加圧 → 30kPa（1.3気圧）で均圧 → 10分で減圧 |
|    | ③ 『30kPa、はやく』 = 5分で加圧 → 30kPa（1.3気圧）で均圧 → 5分で減圧    |
|    | ④ 『20kPa、ふつう』 = 5分で加圧 → 20kPa（1.2気圧）で均圧 → 5分で減圧    |
|    | ⑤ 『20kPa、ゆっくり』 = 7分で加圧 → 20kPa（1.2気圧）で均圧 → 7分で減圧   |
|    | ⑥ 『20kPa、はやく』 = 3分で加圧 → 20kPa（1.2気圧）で均圧 → 3分で減圧    |

- ※1. **運転中のコース変更はできません。**
- ※2. 『リセット』ボタンを押しながらコース設定をすると、初期値がその時間に変更されます。



## **i** 付属品の取り扱いについて

### ●インターホン（親機／子機 セット）

インターホン（セット）の使いかたや設定変更のしかたについては、別途添付されている『デミトーク 取扱説明書』を参照してください。

インターホン（親機／子機 セット）



### ●操作リモコンの無線通信登録

操作リモコンを追加したり、あたらしいものと交換したりしたときは、無線通信登録を行う必要があります。

#### 1) 登録モードにする

- ①操作器の『リセット』ボタンを押しながら、『耳抜 ON/OFF』ボタンを押します。
- ②操作器の表示がすべて消え、圧力表示画面中の右側の『. (ドット)』が点滅した後に消えると、登録モードになります。



#### 2) 登録する

- ③登録したい操作リモコンのボタン（2つのうちのどちらでもかまいません）を押すと、操作器の圧力表示画面中の右側の『. (ドット)』が点滅して、リモコンが登録されます。
- ④複数の操作リモコンを登録する場合は、続けてそれぞれのリモコンで③の操作を行ってください。

#### 3) 終了する

- ⑤操作器の『耳抜 ON/OFF』ボタンを押すと、登録モードを終了して通常の状態に戻ります。

※登録モードのときに、操作器の『運転 ON/OFF』ボタンを押すと、操作器の圧力表示画面中の右側の『. (ドット)』が早く点滅して、すべてのリモコンの登録が解除されます。

## 1人で操作するには・・・

DP-K700 に付属している操作リモコンや、チャンバーの内側からスライドドアを開閉できるという特徴を応用して、利用者自身ですべての操作をおこなうこともできます。



ここでは1人で利用する場合の手順を示していますが、利用者自身が利用中に眠ってしまったり、装置が故障したり、といった予期しないトラブルが発生したときすぐに外部から対応してもらえるよう、近くにいる人をお願いして、インターホンや携帯電話等を使ってすぐに連絡がとれる状態にした上でご利用ください。  
緊急時に対応してもらえる人がいない状態での1人操作はおひかえください。

### 1. 運転する前に

- ① 7ページ『ご利用される方への注意』をよく読み、じゅうぶん理解してください。



特に下記の項目は、これらに該当するにもかかわらず無理に利用した場合、体調を悪くする原因となるおそれがありますので、絶対に利用しないでください。

- ② 15ページ『1. 運転する前に』と、17ページ『確認運転をする』の全項目を完了させてください。



・装置に少しでも異常があった場合は、1人で利用しないでください。1人で利用中に故障が発生した場合、事故につながる可能性があります。

### 2. 1人で運転する

確認運転で異常がないことが確認できたら、さっそく運転してみましょう。

- ① 持ち物をチェックします。

・持ち込みが禁止されているものは、チャンバー内に持ち込まないようにしてください。

<持ち込みが禁止されているもの>



- ・マッチ・ライター・たばこ・カイロ・可燃性液体などの発火・引火しやすいもの
- ・ナイフ・はさみなどの刃物類や、キリ・ドライバーなど先のとがったもの
- ・湯タンポ・ペットボトル・紙パック飲料などの密閉容器類（破裂するおそれがあります。）
- ・飲食物／薬品類

- ② 26 ページ『利用中に耳が痛くなったら…』、27 ページ『耳抜き支援モード』を利用するには…』、28 ページ『緊急時には…』、40～41 ページの『故障?と思ったときは』をよく読み、じゅうぶん理解してください。

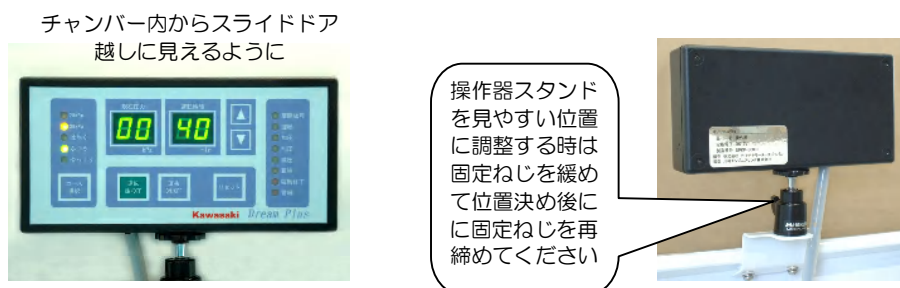
・チャンバー内に設置されている「緊急排気弁」、「操作リモコン」を使いますので、それぞれ正常に動作することをしっかり確認してください。



- ③ 操作器の運転時間表示が設定値（初期値は 40）になっていることを確認します。

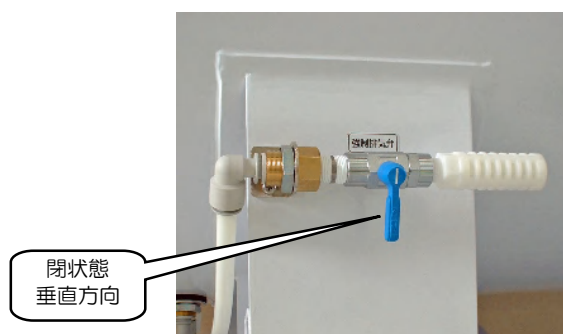


- ④ 操作器の表示面を、チャンバーの中から窓越しに見える位置にセットします。



- ⑤ 強制排気弁のレバーが垂直方向を向いていることを確認します。

・レバーが水平方向を向いているときは、レバーをまわして垂直方向に向けて閉めてください。



⑥ チャンバーのスライドドアを開けて、中に入ります。

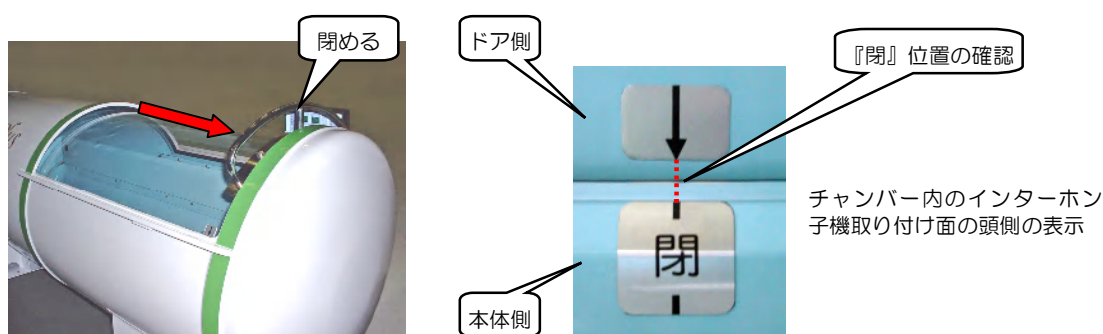
- ・チャンバーの出入口周囲の角に、手足や体をぶついたりしてけがをしないように注意してください。



⑦ 中に入ったら、スライドドアの内側取っ手を持ってスライドドアを閉めます。

チャンバー内側に貼ってある『閉』位置表示文字とスライドドアに貼ってある矢印が一直線上にあることを確認してください。

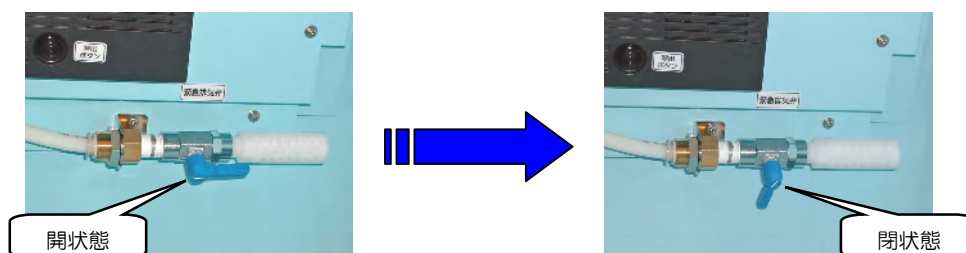
- ・スライドドアを乱暴に開閉して密閉用のゴムパッキンなどを傷めないように注意してください。
- ・スライドドアが『閉』位置にきていないとパッキン部分から空気が漏れて、チャンバー内の気圧は上がりません。
- ・スライドドアとゴムパッキンの間に衣服や異物をはさんだまま閉めると、密閉が不完全なために空気が漏れて、チャンバー内の気圧は上がりません。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり引っばるようにしてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

⑧ チャンバー内の緊急排気弁が閉まっていることを確認します。

- ・レバーが水平方向を向いていると弁が開いた状態となり、コンプレッサーから送られた空気がここから逃げてしまいます。



⑨ 操作リモコンのボタンを押して、運転を開始します。

- ・『運転 ON/OFF』ボタンを押すと、自動運転が始まります。
- ・何度も押すと、『運転』『停止』をくりかえします。



かならず、外部の人と連絡がとれる状態でご使用ください。

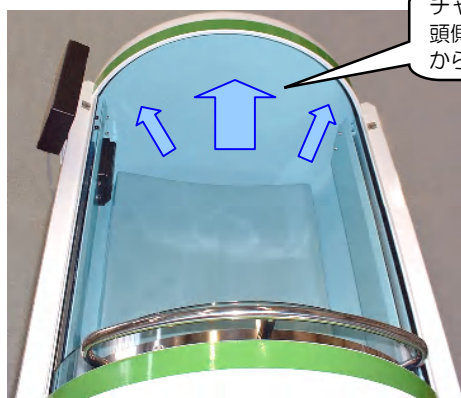
押す→運転



⑩ チャンバー外の操作器の運転時間表示がカウントダウンをはじめていることを確認します。

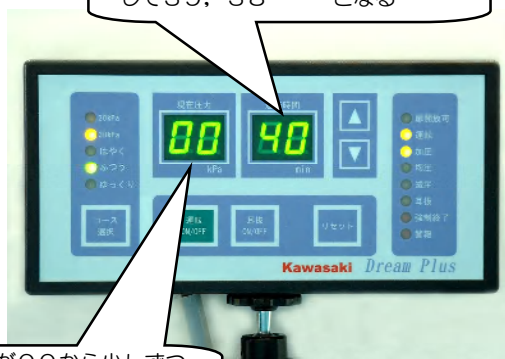
- ・このとき、制御盤内のコンプレッサーからチャンバーに空気が送られて加圧が始まり、操作器の運転時間表示がカウントダウンをはじめます。

チャンバー内の頭側のマット下側から空気が出てくることを確認してください。



チャンバー内の頭側マット下側から空気がでる

時間表示が40からカウントダウンして39, 38・・・となる



圧力表示が00から少しずつ上がり01, 02・・・となる

- ・圧力表示の数値がすこしずつ上がっていくことを確認してください。

\*運転中は操作器の圧力表示で内部の気圧を監視し、異常があればすぐに運転を中止してください。

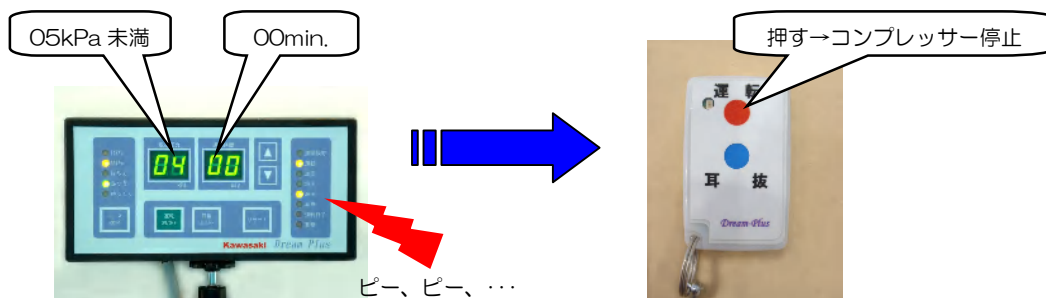


- ・圧力表示の数値が上がりはじめてから気圧が安定するまでの間は、チャンバー内の利用者は耳に違和感を感じるので耳抜きをする必要がありますが、うまくできない場合は耳が痛くなることがあります。また、我慢して利用し続けると、痛みが増したり違和感が数日間残ったりする場合があります。(症状には個人差があります。)
- ・これを防ぐために、加圧中には耳抜きをくりかえしおこない、耳が痛くなった場合には『耳抜 ON/OFF』ボタンを押して**耳抜き支援モード**にしてから、あらためて耳抜きをおこなってください。
- ・耳抜き支援モードでは、チャンバー内の気圧を一時的に下げるので、耳抜きがしやすくなります。
- ・耳抜き支援モードを開始して1分経過すると、耳抜き支援モードにはいる前の状態に戻りますが、運転時間は最初に設定した長さのまま変わりません。
- ・耳抜き支援モードを利用しても耳抜きがうまくできない場合は、無理をせずに『運転 ON/OFF』を押して強制終了してください。

※詳細は26、27ページを参照してください。

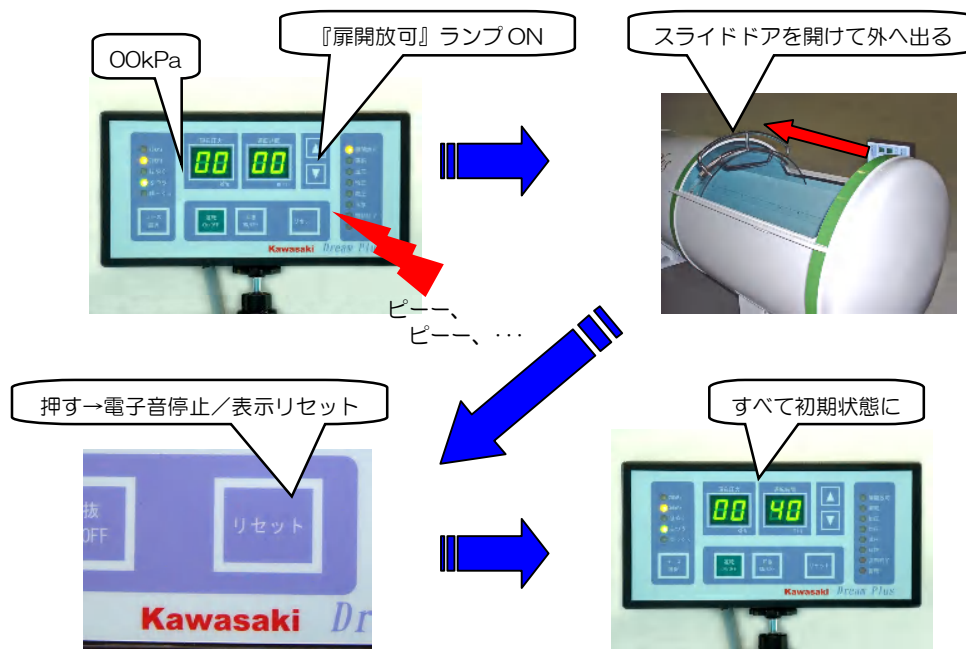
- ⑪ 操作器の運転時間表示が 00min. になって、圧力表示が 05kPa よりも下がって「ピー、ピー、…」という電子音が鳴ったら、操作リモコンの『運転 ON/OFF』ボタンを押してコンプレッサーを止めます。

- ・コンプレッサーと電子音は、『運転 ON/OFF』ボタンを押すまで止まりません。
- ・コンプレッサーを止めると、チャンバー内に残っている空気が少しずつ抜けて圧力表示が 00kPa に近づきます。



- ⑫ 操作器の圧力表示が 00kPa になるともう一度「ピーー、ピーー、…」という電子音が鳴って状態表示ランプの『扉開放可』が点灯するので、スライドドアを開けてチャンバーから出て、『リセット』ボタンを押して電子音を止めます。

- ・電子音は、『リセット』ボタンを押すまで止まりません。



チャンバー内の気圧が変化するとき、チャンバーがきしむような音がある場合がありますがこれはスライドドアが密閉用のゴムパッキンに押し付けられたり、はなれたりするときに、スライドドアとゴムパッキン間で起こる摩擦や、スライドドアが気圧の変化と共に微妙な変形を起こす際に、スライドドアの取り付け用金物との間に起こるきしみ音で、異常ではありません。



- ・スライドドアを開閉するときは、取っ手を持って水平方向にゆっくり引っ張るようにしてください。
- ・乱暴なスライドドアの開閉操作をしますと、スライドドアやゴムパッキンを破損して密閉できなくなるおそれがありますので、じゅうぶん注意してください。

## お手入れするには

Dream-Plus DP-K700 には次のお手入れが必要です。次の各項目にしたがってお手入れを行なってください。

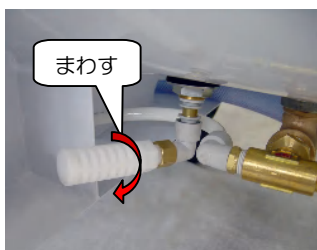
- 各種弁、消音器、ホースの取り付けがゆるんでいないか、スライドドアに割れなどの傷がないか、また、シール用のゴムパッキンに裂け傷や外れがないかチェックします。（毎回）

- ・スライドドアに割れなどの傷がないか  
ゴムパッキンに裂け傷や外れがないか  
チェックしてください。

スライドドア（透明アクリル板）



ゴムパッキン

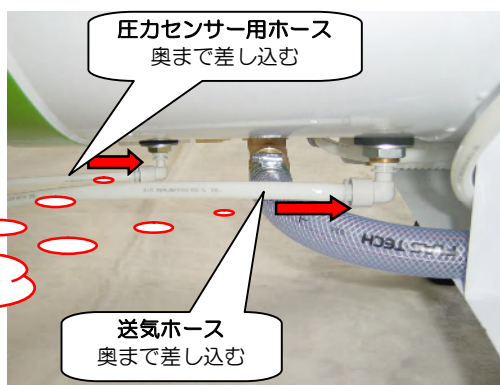


- ・消音器の取り付けがゆるんでいる場合は、手で  
右回転にまわしてしっかり取り付けてください。

- ・圧力センサー用ホースが接続口にしっかり差し込まれていないと、ホースがはずれて圧力センサーが  
圧力を検知できなくなる可能性があるため、確実に差し込んでください。

- ・送気ホースも同様に、接続口にしっかり差し込まれていないと、送気ホースがはずれてチャンバー内に  
空気が送られなくなる可能性があるため、確実に差し込んでください。

制御盤側も同様に!!



- ・各種ケーブルのコネクタがしっかり差し込まれていないと、各機器に信号が送られなくなる可能性が  
あるので、確実に差し込んでください。



● **チャンバー内および制御盤のちり・ほこりを取りのぞきます。(毎回)**

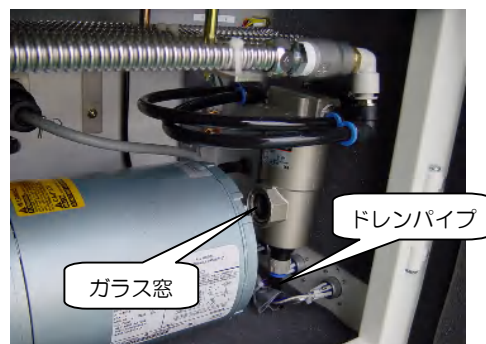
- ・運転がおわるたびにチャンバー内外の消音器や、制御盤の空気取入口、排気ファンなどを確認し、目立つものは取りのぞいてください。
- ・1日の運転がおわったら、掃除機などを使って掃除してください。
- ・特に消音器は、目詰まりをおこすと空気の流れに影響するだけでなく、コンプレッサーの寿命にも影響しますので、清掃をおこたらないようにしてください。
- ・週に1～2度は、チャンバー内のマットや枕を取り出して掃除してください。

● **チャンバー内のスノコ・マット等を干します。(週1～2回)**

- ・チャンバーから取り出したら、ほこり等の全体的なよごれはやわらかい布で乾拭きし、部分的なよごれは、水に濡らしてかたくしぼった布で軽く拭いてください。
- ・マットの表面は合成皮革ですので、日光に当たると変色するおそれがあります。干すときは風通しの良い乾燥した場所で、日の当たらない場所を選んでください。
- ・合成皮革にはカビが繁殖しやすく、水に濡れると変形しやすい欠点がありますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。

● **制御盤内のエアフィルターのガラス窓を確認します。(週1～2回)**

- ・オートドレン付ですので、配管チューブから盤外に水が出ることがあります。
- ・ガラス窓の内側が汚れていたら、フィルターエレメントを交換してください。
- ・ガラス窓の内側が汚れていなくても、フィルターエレメントは年1回を目安として交換してください。  
(お買い上げ販売店にお求めください。)



エアフィルターには防熱カバーが取り付けられておりますので、点検の際は防熱カバーを取り外しておこなってください。

● **チャンバーについたよごれを取りのぞきます。**

- ・やわらかい布で乾拭きしてください。
- ・よごれがひどいときは、水または中性洗剤に濡らしてかたくしぼった布で拭いてください。  
※酸性／アルカリ性の洗剤を使うと、チャンバーの塗装をいためるおそれがあるので、洗剤を使うときはかならず中性のものを使用してください。
- ※ゴムパッキンを溶剤系の薬品で拭くと、ゴムが溶けたり劣化が早くなりますので、使用しないでください。

● **ゴムパッキンの表面を手でさわって、専用グリスが塗布されていることを確認します。**

- ・ゴムパッキン表面の汚れは軽くふき取る程度にして、グリスを完全に拭き取らないでください。
- ・ゴムパッキン表面のグリスの塗膜がなくなると劣化が早まり、気密性が悪くなるおそれがあります。
- ・ゴムパッキンの表面を指先でさわって、脂分がない(=指がなめらかにすべらない)ようであれば、専用グリスを塗布する必要があります。  
※専用グリスについてはお買い上げ販売店にてお求めください。



● スライドドアがこわれていないか、また、ゴムパッキンが裂けたりして傷んでいないか確認します。

- ・スライドドアの透明アクリル板にヒビや割れがある場合は、スライドドアを交換する必要がありますので、お買い上げ販売店にご連絡ください。
- ・スライドドア周囲のゴムパッキン密着部には、ゴムパッキンに塗布されているグリスが付着してほこりが付きますが、掃除する場合はほこりのみを取り除く程度でグリスは残すようにしてください。
- ・ゴムパッキンが裂けたり、劣化して外れている場合は、お買い上げ販売店にご連絡ください。

● **ゴムパッキンの変形がないか確認します。**

- ・スライドドアを完全に閉めたままの状態でも長期間放置したり、また圧力をかけたままの状態でも長時間放置されるとゴムパッキンが変形し、加圧しようとしても圧力が上がらない場合があります。このような場合は、お買い上げ販売店にご連絡ください。
- ・連続して使用するときや運転時間を長くして使用した後はゴムパッキンが変形している可能性がありますので、チャンバー内の換気も兼ねてスライドドアを10～15分間程度開放して、ゴムパッキンが元の状態に戻るまでお待ち下さい。

● 各種消音器、および制御盤内のエアフィルターのエレメントは、消耗品です。それぞれ下記の表を交換時期の目安として、お買い上げ販売店にてお求めください。

部 品 名	取 付 場 所	交換目安時期
送気消音器（黒）（2個）	チャンバー内・頭側	6ヶ月
排気消音器（大）（2個）	チャンバー内・足元側	6ヶ月
リリーフバルブ消音器（黒）（1個）	チャンバー外・リリーフバルブ	6ヶ月
エアフィルターエレメント（1式）	制御盤内	1年
ゴムパッキン（一体型）（1本）	チャンバー内・スライドドア部	2年または* 3000時間
コンプレッサー内部フィルタ（2個）	コンプレッサー内部	納入後 500時間 それ以降 6ヶ月

※消音器およびエアフィルターは、装置の使用頻度が高い場合や、設置場所の環境が悪い場合には、上記の交換時期よりも早く交換するようにしてください。

\*ゴムパッキンが裂けたり本体からはがれたりした場合は、新しいものと交換してください。

● チャンバー使用後は、スライドドアを開放して内部の空気を入れ替えるようにします。

- ・スライドドアは、装置を毎日使用する場合はしめなくてもかまいませんが、1週間以上使用しないときは、ゴムパッキンを保護するために、軽くドアを閉めた状態で保管してください。また子どもの閉じこみが懸念される場合は、25ページを参照してスライドドアを固定してください。

## 故障？と思ったときは

修理を依頼される前に、もう一度次の項目をおたしかめください。

故 障 ？	原 因	処 置
電源が入らない	●電源プラグがはずれている	●電源プラグを確実に差し込む
	●制御盤内のブレーカーが「OFF」になっている	●ブレーカーを「ON」にする
操作器の各種表示・ランプが点灯しない	●制御盤内のバックアップ電源が「OFF」になっている	●バックアップ電源を「ON」にする ※詳細は添付の『無停電電源装置 取扱説明書』を参照してください。
スライドドアがしまらない	●異物等がかみ込んでいる	●かみ込んだものを取りのぞく
	●ドアがこわれている	●お買い上げ販売店にご連絡ください
チャンバー内の気圧が上がらない	●コンプレッサーが作動していない	●コンプレッサーの電源プラグを確認 ●操作器の『運転 ON/OFF』ボタンを押す ●チャンバー内の緊急ボタンを「OFF」にする
	●チャンバー内の緊急排気弁が開いている	●緊急排気弁を閉める
	●強制排気弁が開いている	●強制排気弁を閉める
	●送気ホースまたは圧力センサー用ホースが外れている	●各ホースを確実に取り付ける
	●ゴムパッキン部から空気がもれている	●運転を止めてスライドドアを「閉」位置まで閉めなおす
	●ゴムパッキンとスライドドアとの間にごみ等がついている	●スライドドアとゴムパッキンのごみ等をとりおす、スライドドアを閉めなおす
	●スライドドアを閉めたとき、ゴムパッキンとスライドドアの間にすきまが空いている	●ゴムパッキンに変形が起きているためスライドドアを開放してパッキンの変形を元に戻す ●連続入れ替え使用等を行っている場合には10～15分間ドアを開放してから再度運転する ●ゴムパッキンとスライドドアとの間にすきまが空いた状態のまま直らない場合は、お買い上げ販売店に連絡ください
	●コンプレッサーの空気取入口がよごれている	●コンプレッサーの空気取入口のよごれをとりおす
	●コンプレッサー内部フィルターがよごれている	●新しいフィルターに交換する必要がありますので、お買い上げ販売店に連絡ください
●操作器の運転時間表示部にエラーコードが表示される	●41 ページ『警報およびエラーコード』を参照の上、原因となるものをとりおす	

故障？	原因	処置
チャンバー内の気圧が上がらない	●ゴムパッキンに裂け傷やチャンパー本体からの外れがある	●新しいゴムパッキンに交換する必要がありますので、お買い上げ販売店に連絡ください
	●スライドドアにヒビや割れがある	●運転を止めてお買い上げ販売店にご連絡ください
チャンバー内の気圧が維持できない	●スライドドアの閉め方が不完全である	●運転を止めてスライドドアを一度開け再度閉めなおす
	●強制排気弁、緊急排気弁が開いている	●強制排気弁、緊急排気弁を閉める
	●運転中に圧力が31kPaを越えて上がる	●チャンパー足元側内外の消音器を清掃、または新しいものに交換する ※お買い上げ販売店にお問い合わせください。
チャンパー内の気圧が33kPaを超えて警報音が鳴り、自動運転が強制終了される	●チャンパー足元側内外の消音器がほこりでつまっている	●消音器を清掃、または新しいものに交換する ※お買い上げ販売店にお問い合わせください。
インターホン子機の呼出ボタンを押しても親機が鳴らない	●インターホン親機の受話器がはずれている	●受話器を置きなおす
	●インターホン親機の電池が消耗している	●電池（単3形 1.5V 乾電池×4本）を新しいものと交換する ※詳細は添付の『デミートク 取扱説明書』を参照してください。
	●インターホン親機の電池の極性（+/-）を間違えている	●電池を正しい方向に入れなおす ※詳細は添付の『デミートク 取扱説明書』を参照してください。
	●インターホン親機～制御盤間のケーブル、あるいはチャンパー本体～制御盤間のケーブルが断線している	●お買い上げ販売店に修理を依頼してください
操作リモコンのボタンを押してもスタート/ストップしない	●操作リモコンの電池が消耗している	●操作リモコンの電池を新しいものと交換する ※お買い上げ販売店にお問い合わせください。
	●操作リモコンの無線通信の周波数が合っていない	●操作リモコンの無線通信登録をやりなおす

MEMO

## 警報およびエラー表示と対策

自動運転中に何らかの異常が発生したとき、操作器の状態表示ランプの『警報』（赤ランプ）が点灯して、「ピーッ、ピーッ、…」という警報音（電子音）が鳴ると同時に運転時間表示画面にエラーコードが表示されます。



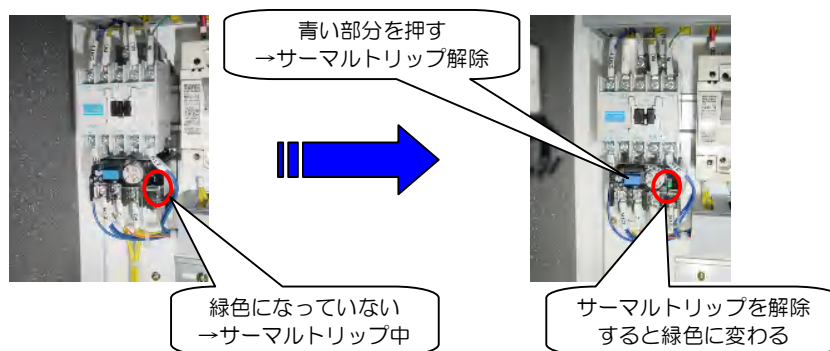
### エラーコード一覧

エラーコード	内 容	対 策
E 1	測定圧力値上限警報 調節計で検出：AL1=33kPa 以上	●チャンバー内部の排気消音器、または自動排気弁消音器の目づまりが原因と考えられるため、各消音器を交換してください。
E 2	偏差上限警報 調節計で検出：AL2	●消音器を交換してもエラーが発生する場合は、自動制御装置の故障の可能性がありますので、お買い上げ販売店にお問い合わせください。
E 3	偏差下限警報 調節計で検出：AL3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スライドドア部分の密閉が不完全な場合は、いったん運転を中止して、スライドドアを閉めなおしてください。</li> <li>●強制排気弁や緊急排気弁が開いている場合は、それらの弁を閉めてください。</li> <li>●緊急ボタンが押されてコンプレッサーが作動していない場合は、緊急ボタンをもう 1 度押して「OFF」にしてください。</li> <li>●連続して使用するときや運転時間を長くして使用した後はゴムパッキンの変形によりチャンバー内の気圧が上がらない場合があります。スライドドアを10～15分間程度開放して再運転して下さい。</li> </ul>
E 4	トリップ警報 サーマルトリップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプレッサーの過負荷が原因の場合は、原因をとりのぞいてから制御盤内のサーマルトリップを解除してください。（下記参照）</li> <li>●原因がわからない場合や故障と考えられる場合は、お買い上げ販売店にお問い合わせください。</li> </ul>
E 5	停電警報 UPS のバックアップ時に出力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●停電中の場合は、復旧までお待ちください。</li> <li>●電源プラグが抜けている場合は、プラグをコンセント差し込んでください。</li> <li>●復旧後はかならず確認運転をおこなってください。</li> </ul>
E 6	通信異常 制御盤から応答がない場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コネクタがゆるんでいる場合は接続しなおしてください。</li> <li>●操作器接続ケーブルが断線している場合や、自動制御装置が故障している場合は、お買い上げ販売店にお問い合わせください。</li> </ul>

- これらのエラーコードが表示されると自動運転は強制終了され、チャンバー内の気圧が下がります。  
約5分（30kPaコース選択時）～3分（20kPaコース選択時）で00kPaまで減圧

※このとき、『耳抜き支援モード』は使えません。

- 警報音を止めるには、操作器の『リセット』ボタンを押してください。  
エラー表示は、チャンバー内の気圧が下がってエラーが解除されると元に戻ります。  
チャンバー内の気圧が00kPaになってもエラー表示が元に戻らないときは、制御盤左側面の電源スイッチを「OFF」→「ON」してください。それでも戻らない場合はお買い上げ販売店にお問い合わせください。
- エラーコード『E4』が表示されたときは、制御盤内左上のサーマルを確認し、トリップ状態であれば、青い部分を押してトリップを解除してください。  
それでも戻らない場合はお買い上げ販売店にお問い合わせください。



MEMO

## 主 な 仕 様

種 類	：	スチール製高気圧空気チャンバー
品 名	：	Dream-Plus
品 番	：	DP-K700
使 用 圧 力	：	30±2kPa, 20±2kPa
最 高 使 用 温 度	：	40℃以下
材 質	：	チャンバー本体；鋼板, スライドドア；透明アクリル板
コンプレッサー	：	ロータリー式エアークOMPレッサー オイルレスタイプ 4 極モーター内蔵 電源 AC100V, 50/60Hz
外 形 寸 法	：	チャンバー W 712×L 2,050×H 820 mm (内径 700mm) 制 御 盤 W 500×H 600×D 300 mm 操 作 器 W 220×H 110×D 45 mm
電 源	：	AC100V, 50Hz/60Hz
消 費 電 力	：	600W
運 転 タ イ マ ー	：	20～99 分 (1 時間 39 分) の間で設定可能 工場出荷時の設定：40 分 ※初期値変更可能
主 な 付 属 品	：	コンプレッサー, 操作器 (ケーブル付), マット, スノコ (2 枚), 送気ホース, 圧力センサー用ホース, 操作リモコン (2 個), インターホン親機 (ケーブル付), 自動排気弁 (ケーブル・ホース付), インターホン/非常停止ボタン用ケーブル, インターホン用乾電池 (単3形 1.5V×4本), DP-K700 取扱説明書 (本書), デミトーク (インターホン) 取扱説明書, 無停電電源装置取扱説明書

●デザインおよび仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

---

高気圧空気チャンバー *Dream-Plus*  
DP-K700 取扱説明書

2007年04月	初版発行	DPK700-8002R0
2007年06月	第1版発行	DPK700-8002R1
2007年10月	第2版発行	DPK700-8002R2

発行 **川崎エンジニアリング株式会社**  
**医療・健康装置部**

Printed in Japan

---

- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書の一部または全部を無断で複製または転載することを禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

# 川崎エンジニアリング株式会社

---

<http://www.khi.co.jp/corp/ke/>

本 社 〒653-0834 神戸市長田区川西通2丁目4番地  
(営業部直通) TEL. 078-612-7101 FAX. 078-642-3656